

壮瞥町第8次社会教育中期計画

集う風・育む風・繋ぐ風 吹くそうべつ

～人が集い 人が育ち 人と人が繋がる学びのまち・そうべつを目指して～



(令和2年度～令和6年度)
令和2年3月

壮瞥町教育委員会

壮瞥町第8次社会教育中期計画目次

◇目次

◇発刊に当たって	壮瞥町教育委員会教育長 谷坂常年	P 2
◇計画策定を終えて	壮瞥町社会教育委員長 中山雄三	P 3
◇第1章 壮瞥町第8次社会教育中期計画策定の基本的な考え方		P 4~5
1 計画策定の意義		
2 計画策定の基本的な考え方		
3 計画目標について		
4 計画の期間		
第2章 壮瞥町民が目指すもの		P 6
1 壮瞥町社会教育推進の全体構造図		
第3章 社会教育の推進		P 7~16
1 領域項目の構成		P 7
領域1 生涯学習の振興		P 8
領域2 家庭教育支援		P 9
領域3 青少年教育		P 10
領域4 成人教育		P 11
領域5 高齢者教育		P 12
領域6 芸術文化・文化財		P 13
領域7 学習環境の整備		P 14
領域8 読書活動の推進と子どもの読書環境の整備		P 15
領域9 生涯スポーツの振興		P 16
◇資料		P 17~83
1 質問文		P 17~18
2 答申文		P 19
3 壮瞥町第7次社会教育中期計画評価結果・評価シート		P 20~41
4 壮瞥町第8次社会教育中期計画策定に向けたアンケート結果		P 42~72
5 壮瞥町第8次社会教育中期計画及び 第2期壮瞥町スポーツ推進計画策定会議(ワークショップ資料)		P 73~81
6 壮瞥町第8次社会教育中期計画策定に係る各種委員名簿		P 82
7 壮瞥町第8次社会教育中期計画策定経過		P 83

発刊にあたって

壮瞥町教育委員会 教育長 谷 坂 常 年

壮瞥町における社会教育は、住民の主体的な学習活動を支援する立場で、学習環境の整備、学習機会を提供してまいりました。近年の社会情勢が、人口減少や少子高齢化が急速に進み、貧困問題や格差社会の拡大、情報通信技術の発展、地域コミュニティの弱体化、グローバル化と在留外国人や訪日外国人の増加など、大きく変容しており、地域社会が一丸となって課題解決に取り組む必要があります。さらに、つながりの希薄化と生活体験の減少により、子どもたちの規範意識や社会性、自尊意識、生活習慣の乱れ等による学習意欲や体力、気力低下の課題等が指摘され、依然として地域、家庭の教育力の低下が懸念されています。

壮瞥町の社会教育では、「第4次壮瞥町まちづくり総合計画（平成22年度～令和元年度）」における「住民主役のまちづくり」、「将来を見通し、変化に即応できるまちづくり」、「枠組みを超えて連携し合うまちづくり」、「効果的・効率的な行財政のまちづくり」の4つの方針を基本として、第7次社会教育中期計画（平成27年度～令和元年度）を推進してきたところですが、今後とも町民が心豊かで生きがいのある人生を送ってもらうためには様々な技術を習得したり、多くの知識を学習活動から学ぶことは勿論ですが、それぞれの社会教育活動を通して、豊かな人材を育てていかなければいけません。

今回策定する「壮瞥町第8次社会教育計画」は、令和2年度から実施される「第5次壮瞥町まちづくり総合計画」を踏まえつつ、町民全体に「集う風」「育む風」「繋ぐ風」の3つの風が吹いているイメージを想像して、「集う風 育む風 繋ぐ風 吹くそうべつ」をテーマとして「人が集い、人が育ち、人と人が繋がる学びのまち・そうべつ」を目指して社会教育の振興方策をまとめております。

また、策定委員と行政が協力して、複数ある各種事業について詳細な評価シートを作成して事業評価を行うことで、事業によってもたらされた変化をより正確に把握することができ、年度毎に見直しをしながら社会教育の推進を図っていきます。

今後は、この新しい中期計画のもと、生涯学習社会の実現を目指し、社会教育を推進してまいりますので、共に取り組んで下さるよう、町民の皆様のご協力をお願い申し上げます。

結びになりますが、本計画の策定にあたり、度重なる熱心な審議をいただき、答申を賜りました壮瞥町社会教育委員、壮瞥町文化財審議会委員、壮瞥町スポーツ推進委員の皆様をはじめ、アンケート調査にご協力をいただいた町民の皆様に心より敬意と感謝の意を表します。

また、ワークショップを通して計画策定の方向づけをしていただきました北海道立生涯学習推進センターの皆様にお礼と感謝を申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

計画策定を終えて

壮瞥町社会教育委員長 中山雄三

令和元年7月18日、壮瞥町教育委員会より「第8次社会教育中期計画」の策定について諮詢を受けました。今回の「第8次社会教育中期計画」の策定において、北海道立生涯学習推進センターから2名の講師をお招きし、計画策定における講演と「町の現状について」「目指す町の姿」の二つのテーマを題材にワークショップを行い、各委員から忌憚のない意見が数多く出るなど、各委員の理解度を深めることができる大変な有意義な会議からスタートすることができました。

今回の「第8次社会教育中期計画」を作成するにあたり、町民に「集う風」「育む風」「繋ぐ風」という3つの風が吹いている情景をイメージし、「集う風 育む風 繋ぐ風 吹くそうべつ」をテーマとしました。

計画策定においては「第7次社会教育中期計画」における事業結果と評価、町民に対して実施したアンケート結果とワークショップで出た意見等を参考に取りまとめて作成した素案をもとに壮瞥町社会教育委員・壮瞥町文化財審議会委員・壮瞥町スポーツ推進委員からなる策定委員により2回の審議を行いましたが、アンケートに関する意見や社会教育に関する意見、委員から見た事業の現状や日常の関わりの中で感じていることの意見交換をもとに各領域（テーマ）ごとの現状、課題、方向性、主要施策や推進事項等の審議を重ね、今後の施策と方向性をまとめることができましたが、今回たずさわった各委員の皆様、教育委員会が町民に中期計画の内容を少しでも知らしめ、町民の皆様が参加される機会を多く持ちたいと期待するものです。

また、1年ごとに策定委員と行政が協力して、各種事業について詳細な評価シートを作成して事業評価を行うことで、よりよい事業を作りあげる方法で社会教育の推進を図っていくことになりました。

今回策定した計画が、町民の皆様が学びを通して豊かな心を育む環境や住民相互の対話や相互扶助による接続可能な地域づくり、共生社会の形成の礎となることを願っています。

終わりになりますが、本計画の策定作業にあたり審議を重ねていただいた策定委員各位に感謝の意を表すとともに、計画策定全般にわたり、ご指導いただきました北海道立生涯学習推進センターの皆様に感謝を申し上げ、ご挨拶といたします。

第1章 壮瞥町第8次社会教育中期計画策定の基本的な考え方

1 計画策定の意義

壮瞥町の社会教育においては、昭和63年度に「生涯教育推進計画」（昭和63年～平成2年度）を第1次として策定以降、第2次（平成3年～5年度）、第3次（平成6年～11年度）、第4次（平成12年～16年度）、第5次（平成17年～21年度）、第6次（平成22年～26年度）、第7次（平成27年～31年度）と7期にわたり、各時代の多様な要求や課題に応えるべく、計画の見直しを図るとともに将来を見通した社会教育活動を推進してきたところです。

そして、第7次計画では、平成22年度から10ヶ年計画の「第4次壮瞥町まちづくり総合計画」を踏まえ、生涯学習の基盤整備と町民一人一人の生涯学習活動の支援に努めてきました。

しかし、この間の社会情勢は、少子高齢化や高度情報化、国際化など激しく変化する中で価値観が多様化し、地域社会や家庭の在り方も大きく変化してきています。

こうした社会環境の変化に対応していくためには、壮瞥町の雄大な自然の中で町民が心豊かで健康に生きがいを持ちながら、生涯に渡って自主的・主体的に学習を継続することが大切であり、その効果は壮瞥町の将来を担う「まちづくり・ひとづくり」に大きく確実につながるものであると考えます。

ここに、第7次壮瞥町社会教育中期計画の評価を踏まえ、町で策定した「第5次壮瞥町まちづくり総合計画」との整合性を図りながら、町民憲章、教育目標、社会教育目標等の理念を具現化するために、第8次壮瞥町社会教育中期計画を策定しました。

2 計画策定の基本的な考え方

この計画は、第7次壮瞥町社会教育中期計画の成果と課題を踏まえ、中期5ヶ年の展望に立った壮瞥町社会教育推進のための基本的施策を示し、今後の具体的な施策、事業の展開にあたる基本理念となるものです。

計画の策定にあたっては、生涯学習の観点に立ち、各推進領域の現状と課題を明確にするとともに、町民代表の策定委員と行政が協力して、複数の事業について詳細な評価シートを作成して「評価と見直し」を行い、よりよい事業をつくりあげる方法で、社会教育の推進を図っていきます。

なお、読書活動の振興は「壮瞥町子ども読書活動推進計画」を作成し、スポーツ振興については「壮瞥町スポーツ推進計画」として別途策定しています。

3 計画目標について

近年、高齢化が急速な勢いで進み、少子化による人口減少の局面に入っています。人口移動の面では札幌一極集中が継続しており、若者を中心に入りが大幅に減少する深刻な事態を迎えて、少なからず地域が将来消滅しかねないとの指摘もなされているところです。こうした中、地域経済の縮小や一人親世帯の増加等を背景とした貧困問題、地域の伝統行事等の担い手の減少、財政の悪化など、本町は様々な課題に直面しています。その中には、人と人とのつながりの希薄化や、それに伴う高齢者や若者の社会的孤立と

いう課題もあります。今後の地域社会を持続可能なものとする上でも、住み心地の良い環境が創られ、子どもや高齢者も安心して暮らせるまちづくりを進めることが急務です。いかに、この町に人が集うかが問われています。【集う風】

地域住民の中には、自らの課題を認識し、厳しい現状の克服に向け、住民の学びをきっかけとした新たな地場産品の開発、住民によるワークショップを中心としたキャッチフレーズやロゴマークの作成、住民が主体となった国際雪合戦の考案など、創意工夫を生かした取組を行い、地域の活性化や人々の生きがいづくりに繋げています。これからも、住民自らが考え、形にして「ふるさと・そうべつ」を育んでいくことが必要です。【育む風】

このように、人口減少の中、地域が直面する課題を解決し新しい地域づくりにつなげるためには、生涯にわたって意欲的に学び続けることが大切です。新しい地域づくりに求められる学習や活動では、知識や技能の習得は大切なことですが、学びの活動の中で培われた、「人と人」、「人と地域社会」のつながりが自分たちの地域コミュニティの活性化を生みだします。また、本町は火山の町でもあり、これまでの経験を次世代につなぎ、噴火に備えた住民の意識啓発など防災に対する取組が安心して暮らせるまちづくりにつながります。このようなつながりが、大人から子どもへ、その子どもが成長して、また子どもに受け継がれるという好循環が将来の住みよいまちづくりの原動力となります。

【繋ぐ風】

第8次の社会教育中期計画は、第5次まちづくり総合計画を踏まえつつ、町民全体に、「集う風」「育む風」「繋ぐ風」の3つの風が吹くそうべつとなるよう、第8次のテーマを「集う風 育む風 繋ぐ風 吹くそうべつ」としてサブテーマとして「人が集い 人が育ち 人と人が繋がる学びのまち・そうべつを目指して」を掲げて社会教育の振興方策をまとめました。

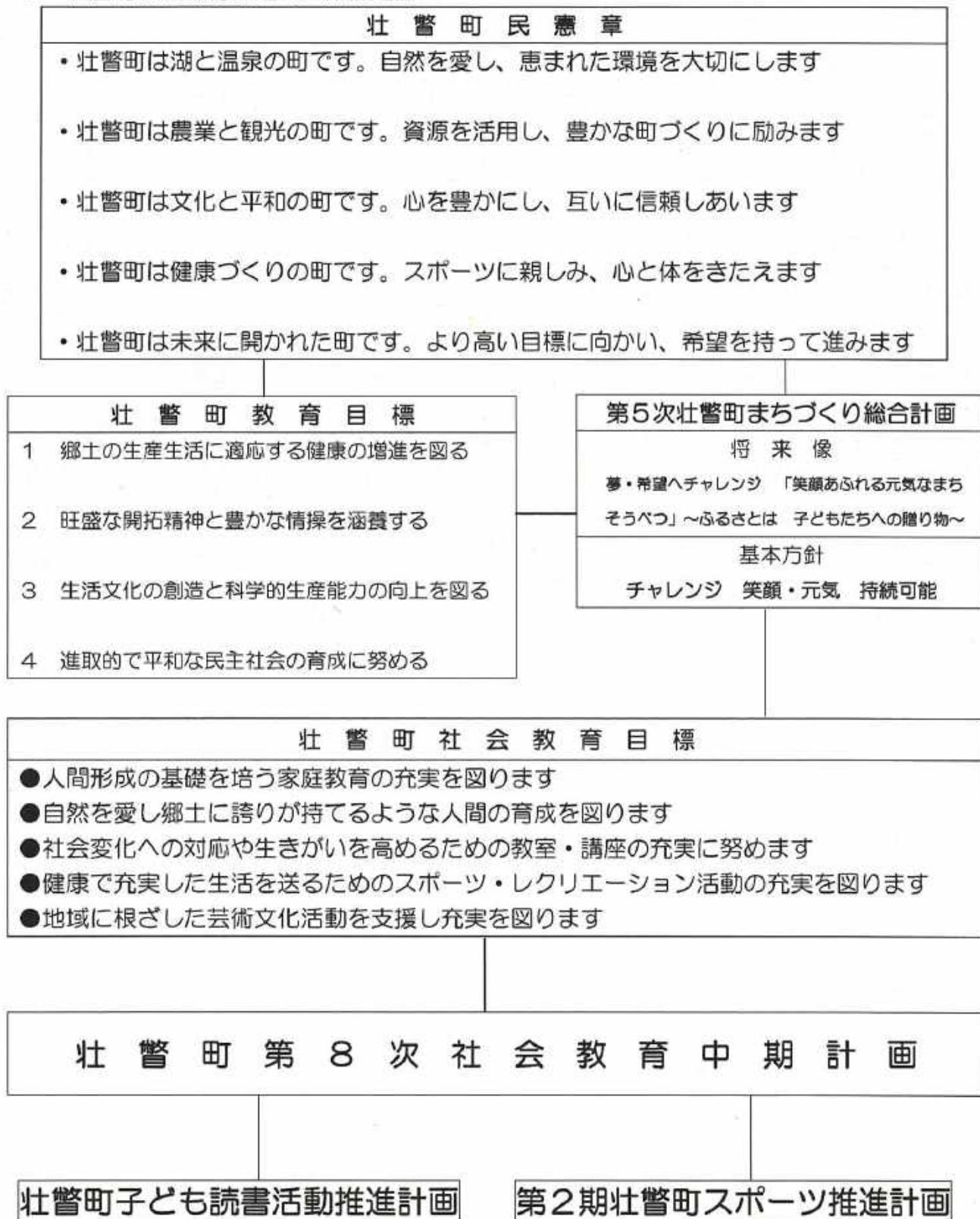
また、町民代表の策定委員と行政が協力して、複数の事業について詳細な評価シートを作成して「評価と見直し」を行い、よりよい事業をつくりあげる方法で、社会教育の推進を図っていきます。個々人の生活や人生は、人々が構成する社会の中で営まれるものであり、一人一人の人生を豊かなものにするとともに、住民相互の対話や相互扶助による持続可能な地域づくりや共生社会の形成を進めるために、本計画に沿って本町の社会教育が推進されることを期待するものです。

4 計画の期間

本計画の期間は、令和2年度から令和6年度までの5ヶ年とします。

第2章 壮瞥町民の目指すもの

1 壮瞥町社会教育推進の全体構造図



第3章 社会教育の推進

1 領域項目の構成

社会教育の推進について、第8次社会教育中期計画の基本的な考え方に基づき、9つの領域（テーマ）を設定しました。それぞれの領域は次の項目で構成されています。

■ 現状

各種調査の結果などを踏まえて、当該領域に関する現状や領域設定の意義などについて記述しています。

■ 課題

各種委員による事業評価などを踏まえて、当該領域に関する課題などについて記述しています。

■ 施策の方向性

各領域の政策目標及び施策目標を達成できるよう、具体的な施策の方向性を記述しています。

■ 主要施策・推進事項・評価

現状と課題を踏まえ、当該領域における「施策の柱」と「推進事項」を記述しています。

そして、年度ごとに進捗状況を判定する「評価」欄を設けています。

- ◎ 取組が大きく進んでいる ○ 取組が進んでいる △ 取組があまり進んでいない
- × 取組が進んでいない

領域1 生涯学習の振興

(1) 現状

生涯学習とは、生涯にわたる学習であり、その領域は多岐にわたっています。子どもは家庭でのしつけを通して様々なことを学び、また、学校では教師から教育を受けて学習しています。家庭教育も学校教育も生涯学習の一部です。成人期や高齢期には、社会教育事業や様々な団体・サークル活動などを通して多種多様な学習が行われています。これらの教育もまた生涯学習の一部です。

本町では、「豊かな人生を送るために、生涯学習が必要」と感じている人が98%とほぼ全町民が生涯学習の必要性を感じています。その理由として、「健康的な生活を送るために」「友人や仲間と交流するため」「趣味や特技を楽しむため」が上位の理由としてあげられています。

(2) 課題

本町の人口は、年々減少傾向にあるとともに高齢化が進行しています。少子高齢化と人口の減少は労働力不足、財政難による行政サービスの縮小を引き起こすと予想され、持続可能な社会づくりをどう実現していくかが課題となっています。

その課題に対応するために、生涯学習領域にあっても、人々が日頃の学習成果を生かして社会に参画し社会を形成していくことが求められています。

住民のほとんどが生涯学習の必要性を感じてはいるが、「地域社会に貢献するため」に学んでいる人は約2割と低い状況です。学んだ知識や経験を地域づくりや子どもたちのために生かす活動を推進する必要があります。

また、人工知能（AI）、ビッグデータ、Internet of Things（IoT）、ロボティクス等の先端技術が高度化してあらゆる産業や社会生活に取り入れられるなどのSociety 5.0時代を迎えるにあたり、AI等の先端技術を活用した教育や学びの在り方への対応も必要と考えられます。

(3) 施策の方向性

○町民の学習活動や学んだ成果を生かした社会参画の促進を図ります。

(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
生涯を通じた学習機会の拡大	・情報通信技術を活用した具体的方策の開発・充実					
学校を核とした地域づくり	・学校運営協議会への支援 ・地域学校協働活動の推進					
主体的な地域の担い手をつくる社会教育	・社会教育に関する専門的職員の資質能力の向上 ・学校教育支援、家庭教育支援、子どもたちの体験活動の支援等にかかわる地域人材の養成と活動の場の確保					

領域2 家庭教育支援

(1) 現状

家庭教育とは、家庭で保護者が子どもに行うしつけや教育のことであり、父母その他の保護者は、子の教育について第一義的責任を有するものです。

近年、核家族化や少子化等の家族形態の変化や地域とのつながりの希薄化により、身近な人から子育てを学んだり助け合う機会が減少し、子育ての悩みや不安を抱えたまま保護者が孤立してしまうなど、家庭教育を支える環境が大きく変化しています。

本町においては、出産や子育てしやすい環境づくりとして、「地域ぐるみの子育て支援の促進」が約3割、「母親同士の交流・情報交換の機会の拡大」を約2割の町民が求めています。

また、子どもたちの豊かな心と健やかな体を育み、確かな学力を身につけていくためには、望ましい生活習慣の定着が重要です。

(2) 課題

家庭教育支援の取組として、学校や認定こども園で家庭教育学級を開設しているが、参加者は特定の保護者に限定されており、講座内容を含め事業内容の検討が必要です。

また、全国学力学習状況調査において、全国に比べ授業時間以外で勉強する時間が短く、ゲームやインターネットを使用する時間が長く、家庭でのルール作りが求められています。

家庭内に閉じて家庭教育を行うのではなく、親も子も地域や社会で他者とのつながりや関わり合いを持ちながら、子どもの社会的自立と親が子育てを通じて自らの人生を豊かにしていくことが必要です。

(3) 施策の方向性

○子どもの望ましい生活習慣の定着に向けた取組の促進と行政間や関係機関・団体との連携・協働による家庭教育支援を推進します。

(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
親育ちのための学習機会の充実	・親育ちのための学習プログラムの充実 ・多様な場を活用した学習機会の提供					
親子と地域のつながりをつくる取組	・関係機関・団体と連携した事業の実施（壮瞥町子ども会育成連絡協議会、壮瞥町PTA連合会、壮瞥町スポーツ少年団等） ・関係機関・団体と連携した情報提供					
子どもから大人までの生活習慣づくり	・児童生徒向けの生活習慣づくりの推進 ・企業と連携した生活習慣づくり（北海道家庭教育サポート企業等）					

領域3 青少年教育

(1) 現状

青少年期とは、好奇心にあふれ、希望に満ち、失敗や挫折を繰り返しつつもそれらに屈することなく前向きに挑戦し続け、そうした試行錯誤の中で意欲を持って自立した社会人の基礎となる素養や力量を養う時期です。

本町では、関係機関や団体の協力のもと、郷土に対する知識や自然豊かな環境での体験活動を通して、豊かな人間性を育み、社会の一員としての自覚を深める取組を進めています。

また、スマートフォンをはじめとしたインターネットの普及に伴い、個人情報の流出やネットによるいじめなどが問題となっており、行政・学校・PTAが共同で「そらべつ携帯・スマホ家庭での3カ条」を作成してアウトメディアの取組を進めています。

(2) 課題

多くの児童生徒が、スポーツ少年団や部活動、社会教育事業等への参加を通して豊富な体験を積んでいるが、テレビやゲームの時間が長いこと、睡眠時間が少ないとこと、我慢できずにすぐにあきらめる傾向があること、主体性がなく受け身であること、学習意欲が低下していること、基本的な生活習慣が身についていないなどの傾向が見られます。

また、不登校についても、予備軍を含めて小学校・中学校・高校において一定程度在籍しているといった状況もあります。

青少年の自立への意欲を高めるために、すべての青少年を「地域の子」としてとらえ、その成長を地域社会全体で支えていく必要があります。

(3) 施策の方向性

○青少年の意欲を高め、心と体の相伴った成長を支える多様な体験活動を推進します。

(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
体験活動機会の充実	・生活・文化体験活動の提供 ・自然・環境に係る学習活動の提供 ・ボランティア活動や職場体験活動などの提供					
地域づくりの担い手となる青少年の育成	・リーダー養成に関する事業の促進 ・青年活動への支援					
学校教育・社会教育の連携強化	・社会教育主事によるコーディネートの促進 ・教員の体験活動に関する指導力向上に繋がる機会の創出					

領域4 成人教育

(1) 現状

成人を対象とした社会教育は、家庭教育に関するもの、教養の涵養に関するもの、スポーツ・レクリエーションに関するもの、自主企画講座などを実施しています。講座やグループ・団体等には女性や高齢者の参加が多くなっています。

成人期の学習の特徴として、学習欲求は、社会的役割によって決まるようになってきます。家庭人としての役割、親としての役割、地域の一員としての役割等、様々な役割を果たす上で学習が必要と感じたときに、学習を始める傾向にあります。

成人は、日々の生活課題を解決するために学習するので、学習した成果をすぐに応用しようとします。そのため、学習の中心は問題解決的な学習が多くなっています。

(2) 課題

これまで、伝統的な地域コミュニティに大きく貢献してきた青年会や女性団体等の組織も、人口減少や高齢化、価値観の多様化など社会環境が変化する中で、メンバーの固定化、活動の縮小などが課題となっています。既存の団体に加え、地域において住民が連帯感を創出することを支援し、新たな地域づくりの担い手となる地域住民を育成することが必要です。

町民が自主的に参画し、学んだ成果を主体的に行動へ繋げる機会を提供することが重要であり、そのためには、成人には「前に踏み出す力」「考え方」「チームで働く力」などの社会人基礎力の育成が必要です。様々な社会教育の場面で、町民と行政の話し合いの場を持ち、役割（自助・共助・公助）と責任を分担しながら、共通の課題や目標を見つけ、協働で課題解決や目標を達成する仕組みづくりが求められます。

(3) 施策の方向性

○地域で互いに支え合う人づくり・まちづくりにつながる学習活動を推進します。

(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
必要に応じて学び続けることができる環境づくり	・学習ニーズの把握 ・地域課題・生活課題の把握 ・ニーズに応じた学習機会の充実					
学習支援システムの構築	・学習相談の充実 ・学んだ成果の活用 ・ＩＣＴを活用した学びの提供					
関係機関・団体との連携	・行政各部署と連携し、まちづくりを担う多様な主体の育成 ・NPO や民間団体等と連携した様々な学習機会の提供					

領域5 高齢者教育

(1) 現状

高齢期における個々の労働意欲や体力等には個人差があり、家庭の状況等も異なることから、学習ニーズも多様です。高齢者が楽しく生きがいをもって学習したりスポーツしたりすることは、健康維持にも効果があることが証明されています。

本町では、山美湖大学の講座を通じて、健康づくりやスポーツ、趣味教養、見学旅行など高齢者が参加しやすい様々な学習機会を提供しています。

また、各学校や児童館児童との世代間交流もを行い、喜びと生きがいを高められるような工夫をしています。

(2) 課題

本町では、65歳以上の高齢者が38%を超えており、国の高齢化率を上回っています。少子高齢化社会にあっては高齢者が社会参画し、地域の支え手として活躍することが地域の活性化のためにも求められています。

また、「人生100年時代」となった現在、平均寿命が80歳代の画一的な人生モデルは多くの人の求めにそぐわないものとなってきており、リタイア後の40年にも及ぶ人生を今後も生涯学習活動を通じて、元気で魅力ある「幸齢者」になって活躍して生きていくための準備が重要となっています。

(3) 施策の方向性

○新しい生き方を模索し、支え合える地域づくりに対応した学習機会の提供を推進します。

(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
社会参加活動の促進	・ボランティア活動などを通した知識や経験の継承機会の推進 ・若者が有する知識を高齢者に伝える機会の創出					
学習活動の促進	・生きがいを創出する学習機会の提供 ・高齢者の特性を生かした学習内容の開発					

領域6 芸術文化・文化財

(1) 現状

芸術・文化は、人生を豊かにし、人々の創造性や感性を育むとともに、社会や経済に活動をもたらす源泉となるものです。特に、地域に根ざした芸術・文化は、それ自体が独自の価値を持ち、さらに、住民の地域への誇りや愛着を深め、住民共通のよりどころとなり、地域社会の連帯感を強めるなど、地域づくりを進める上で重要な役割を有しています。

本町においては、壮瞥町文化協会や文化団体サークルの活動を中心として芸術文化活動が展開されています。また、地域交流センター「山美湖」を拠点として、各種コンサートの鑑賞、芸術文化の発信、交流が行われています。

また、文化財は、有形・無形文化財や史跡など、町が有する貴重な文化財や郷土資料などを壮瞥町文化財審議会と壮瞥町郷土史料館友の会の協力を得て適切な保存と継承に努めています。

(2) 課題

町民の文化活動を支えている文化団体サークルは、高齢化により会員数・サークル数は減少の傾向にあり、多くの団体の課題となっています。後継者の育成や、幅広い世代が興味を持ち気軽に参加できる環境を整えていくことが必要です。

壮瞥町文化祭も、町内に小学校、中学校がそれぞれ1校ずつとなり、これまで行っていた児童生徒発表は行わず、文化団体・サークルの発表のみとなっています。

また、町内には、町が把握できていない文化財や郷土資料などが存在している可能性があります。そのため、郷土史料館友の会とも協力して、調査・収集・保存に努める必要があります。

(3) 施策の方向性

○芸術文化を通じて、心豊かに暮らせる文化的なまちづくりを推進します。

(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
芸術教育の充実と文化芸術活動の推進	・子どもたちの芸術文化活動の推進 ・多様な文化活動の支援					
多様な文化を生かした地域づくり	・文化協会等の連携と交流機会の充実 ・文化芸術の対外発信や国際文化交流の推進					
文化財の保存、活用及び継承	・文化財を次世代に確実に継承するため、修理・整備や後継者の育成等への支援 ・洞爺湖有珠山ジオパークを生かした社会的・経済的価値の創出					

領域7 学習環境の整備

(1) 現状

時代の変化に対応し、充実したライフスタイルを確立するために、「学習」に対する住民の関心が高くなっています。その「学び」の内容や方法は多岐にわたっています。

本町においては、その学習の機会や学習活動の拠点として、地域交流センター・山美湖・図書室、遊学館、青少年会館、総合グランド等、いわゆる社会教育施設が拠点として使われています。「生涯学習に関するアンケート」によると、それぞれの施設の使いやすさについては、地域交流センター・図書室の75%、それ以外の施設は20~60%の割合で使いやすいと回答しています。

また、子ども会育成連絡協議会、青年会、女性団体連絡協議会などの社会教育関係団体においても、人々に社会教育の機会が提供されています。

(2) 課題

地域交流センター・図書室以外の社会教育施設については、全て昭和に建てられたもので老朽化が目立っています。多様な学習ニーズに対応するため、柔軟な発想で既存施設の有効活用を進めるとともに、学習拠点施設としての整備と機能的な連携やその特徴を活かした施設の充実が課題となっています。

また、住民の主体的な学習活動を支援し、「学びあい」「つながりあい」の過程を大切にしながら、団体やサークル等が開放的な活動となるような環境づくりや活動の活性化が必要であり、社会教育施設における活動のみならず、環境や福祉、まちづくり等の社会の多様な分野における学習活動の支援を通じて、人づくりや地域づくりに携わる役割が期待される社会教育士などの指導者を養成していく必要があります。

(3) 施策の方向性

○社会教育に関する情報を収集・分析し、発信し、人々のつながりを生み出す拠点づくりを推進します。

(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
学習の場の整備・充実	・社会教育施設の整備や充実 ・利用環境の改善 ・適正な施設の管理・運営					
社会教育活動団体等のネットワークづくり	・個々のサークルや社会教育関係団体、まちづくり団体などの様々な活動団体の交流・連携 ・リーダーの養成 ・活動の成果をまちづくりに活かせるしくみづくり					
学習情報提供と学習相談機能の整備	・学習情報提供システムの構築 ・学習相談の充実					

領域8 読書活動の推進と子どもの読書環境の整備

(1) 現状

読書活動は、人生をより深く生きる力を身につけていく上で欠くことのできないものであり、社会全体でその推進を図っていく必要があります。

本町では、地域交流センター・図書室及び図書分室を拠点に図書フェスティバルをなどのイベントやボランティア団体による読み聞かせ会など、子どもから高齢者まで幅広く利用されています。年間の貸出冊数は、平成28年度から30年度の3年間の平均で、一人あたり約4冊となっています。

また、子どもの読書環境の整備については、第2次壮瞥町子ども読書活動推進計画（平成26年～30年度）及び第3次壮瞥町子ども読書活動推進計画（令和元年～令和5年度）に基づいて、子どもたちが本に触れる機会の拡充を図ってきました。

(2) 課題

地域交流センターに図書室ができて10年経過し、図書室の利用者数、貸出冊数は安定してきていますが、決して多い利用とは言えません。特に、図書分室は、使ったことがないと「生涯学習に関するアンケート」で答えた割合が約7割と非常に高いことがわかりました。

蔵書の充実をはじめ、様々な取組により、子どもたちも含めて町民がさらに読書を楽しめる環境づくりを進めていく必要があります。

(3) 施策の方向性

○身近で魅力ある図書室づくりを進め、子どもや高齢者など多様な利用者や住民の多様な学習活動を支えます。

(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
住民の読書推進活動への支援	・図書を活用した学習機会の拡充 ・広報活動の充実 ・読書ボランティアの育成と支援					
地域を支える情報拠点としての図書館づくり	・カウンターサービスの充実 ・関係機関・団体との連携					
子どもの読書環境の整備	・第3次壮瞥町子どもの読書活動推進計画（令和2年～6年）に従って推進					

領域9 生涯スポーツの振興

(1) 現状

スポーツは、人生をより豊かにし、充実したものになるとともに、明るく豊かで活力に満ちた社会の形成や個々人の心身の健全な発達に必要不可欠なものであり、人々が生涯にわたってスポーツに親しむことは、極めて大きな意義があります。

本町における生涯スポーツの振興については、平成27年3月に第1期壮瞥町スポーツ推進計画（平成27年～令和元年度）を策定し、「スポーツを核とした『人と地域が輝く』まちづくり」を推進してきました。

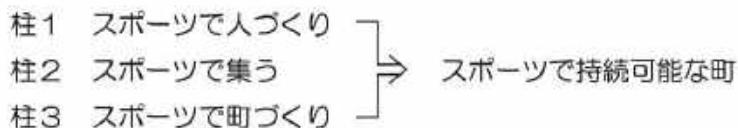
(2) 課題

第1期壮瞥町スポーツ推進計画では、学校、行政、総合型地域スポーツクラブなどが組織の枠を超えて連携する「新しいスポーツ環境」として、ライフステージ・スタイルに応じたスポーツ活動を行いました。幼児期からスポーツ活動に親しむ取り組みや、総合型地域スポーツクラブを中心に小中学生が定期的にスポーツ活動を行う場の創出、スポーツ推進委員による近隣市町との情報交流の促進等のソフト面は前進しましたが、今後はスポーツ施設の有効活用や整備充実、合宿誘致等にも取り組む必要があります。

(3) 施策の方向性

○「第2期壮瞥町スポーツ推進計画（令和2年度～令和6年度）」では、「スポーツで明るく元気に持続するまち」を目指し、3つの柱に分類してスポーツ施策に取り組みます。詳細事項は「第2期壮瞥町スポーツ推進計画」に記載されております。

【計画の3つの柱】



(4) 主要施策・推進事項・評価

主要施策	推進事項	評価				
		R2	R3	R4	R5	R6
生涯スポーツの振興	・第2期壮瞥町スポーツ推進計画（令和2年度～令和6年度）に従って推進					

資料 1

諮詢問

壮瞥町社会教育委員会 様

壮瞥町文化財審議会 様

壮瞥町スポーツ推進委員会 様

次の事項について、別紙諮詢理由書を添えて諮詢します。

「壮瞥町第8次社会教育中期計画の策定について」

令和元年7月18日

壮瞥町教育委員会教育長職務代理者 松永美継

諮詢理由書

「壮瞥町第8次社会教育中期計画の策定について」

壮瞥町教育委員会は、平成22年度から10ヶ年の「壮瞥町第4次まちづくり総合計画」と整合性を図った計画として、平成22年度から5ヶ年の「第6次社会教育中期計画」、平成27年度から同じく5ヶ年の「第7次社会教育中期計画」を策定し社会教育活動の推進に努めてきました。

この「第7次社会教育中期計画」が令和元年度を以て、その計画の最終年度を迎えることとなるため、現計画の課題を検証しながら、令和2年度から5ヶ年の「第8次社会教育中期計画」を策定することとなりました。

少子高齢化、人口減少、高度情報化やグローバル化によって社会全体が急速に変化する中、町民が暮らしに生きがいを感じ、健やかに充実した生活を送るためには、社会教育が基盤となり、人づくり、つながりづくり、地域づくりを推進していくことが求められています。

町民が生涯を通して、必要な学びを自ら選択し、その学んだ成果を生かすことのできる環境づくりがこれからも必要と考えられます。

この生涯学習社会の実現に向けては町民一体となった取り組みが求められており、ますので、「壮瞥町第5次まちづくり総合計画」との整合性を図りながら、この計画の策定作業を進めていただきたいと存じます。

ここに、令和2年度を初年度とする「壮瞥町第8次社会教育中期計画」の策定について諮詢します。

記

答申時期	令和2年3月
計画実施年度	令和2年度より令和6年度（5ヶ年）

資料 2

答 申

令和2年3月17日

壮瞥町教育委員会
教育長 谷坂常年様

壮瞥町社会教育委員長 中山 雄三
壮瞥町文化財審議委員長 千田 重光
壮瞥町スポーツ推進委員長 金子 祐一

壮瞥町第8次社会教育中期計画の策定について（答申）

令和元年7月18日付けをもって諮詢されました壮瞥町第8次社会教育中期計画策定におきまして、町民に対する「生涯学習に関するアンケート」調査の実施、北海道立生涯学習推進センターから講師を招いてのワークショップを開催いたしました。

更には、第7次社会教育中期計画の事業評価を踏まえ、現状と課題、方向性、主要施策等について本委員会において慎重な審議をおこない、令和2年度から令和6年度までの5ヶ年間を対象とした壮瞥町第8次社会教育中期計画を策定しましたので答申します。

策定にあたりましては、町民全員が学びを通して豊かな心を育み、一人一人の人生を豊かなものにするとともに、住民相互の対話や相互扶助による持続可能な地域づくりと共生社会の形成を進めることを願っております。

また、本計画のテーマである、「集う風 育む風 繋ぐ風 吹くそうべつ」が表しているように「人が集い、人が育ち、人と人が繋がる学びのまち・そうべつ」を目指して、社会教育活動の充実と発展に寄与されることを期待します。

資料 3

壮瞥町第7次社会教育中期計画評価（推進事項）

A:積極的に取り組んでいる B:取り組んでいる

C:あまり取り組んでいない D:取り組んでいない・改善が必要

番号	分 野	推 進 事 項	具 体 的 取 り 組 み 事 項	評価
1	乳幼児教育	①乳幼児教育に関する情報提供と学習要求の把握に努める	図書室ブックスタートコーナーの充実	B
			図書室おはなし会の実施	C
2		②関係機関・団体との連携を図り、効果ある学習機会の提供に努める	育児サークルと連携を図った親子がふれあう機会の提供	B
			乳幼児検診のブックスタート事業への協力	A
3		③保護者に対しての取り組みと、異年齢層とのふれあい活動の促進に努める	家庭教育支援事業「親力つむぎ事業」の実施	A
4		④自然体験や親子のふれあい活動等を通して基本的生活習慣や良好な親子関係の構築に努める		A
5	少年教育	①郷土の文化や自然体験等の学習機会の促進に努める	子ども郷土史講座の充実	A
			災害・防災教育の推進	B
			少年の主張大会の実施	D
6		②将来を担う子どもたちを育てるリーダー養成に努める	中学生、高校生リーダー養成事業	B
7		③関係機関との連携により地域における異世代交流や学校間交流に努める	校種間、異校種間、異世代交流の促進	C
			学校教育と連携した事業の推進	B
			学校支援地域本部事業の強化	B
8		④国際交流活動への積極的な参加を図るよう努める	中学生フィンランド国派遣（海外研修）事業	A
9		⑤地域活動への参加意識の高揚に努める	地域子ども会、子ども会連絡協議会への支援	B
10		⑥魅力ある学習機会の提供に努める	児童生徒芸術鑑賞会	A
			新春書き初め大会	B
11		①子育ての悩み解消や保護者向け情報提供など、子育て世代のニーズに対応した取り組みの充実に努める	親力つむぎ事業（親子で参加できる取り組み）の推進	A
12	成人教育	②多様な住民ニーズを把握し、ニーズに対応した学習機会の	「山美湖生涯学習講座」の開設	B
			青年会、婦人団体、社会教育関係団体への継続支援	B
			夜空を見る集いの継続実施	B
14		④地域活動への参加促進と地域づくりの担い手育成に努める	成人式の実施	A
15		⑤学習成果を還元できる仕組みづくりや人材バンクへの登録・活用に努める	人材（生涯学習指導者）バンクへの登録と活用	C
16		⑥地域における人間関係の希薄化を防ぐ取り組みに努める		C
17		①日常の不安解消や健康維持に向けた講座の開設と情報提供に努める	山美湖大学の内容の工夫と充実	A
18	高齢者教育	②そうべつ子どもセンターや児童館、町内各学校と連携した交流機会に努める		
19		③学習成果を還元できる仕組みづくりに努める	各種団体への加入促進	C

20		④人材（生涯学習指導者）バンクへの登録とその活用に努める	人材（生涯学習指導者）バンクへの登録し活用を図っていきます	C
21	芸術文化・文化財	①芸術文化団体等の育成と連携の強化及び文化施設の運営の促進に努める	壮瞥町文化協会及び文化団体サークルの育成及び加入促進の支援	B
22		②芸術文化鑑賞機会の拡充と情報提供に努める	芸術鑑賞ツアーの実施 児童生徒への優れた舞台芸術鑑賞会の提供	B A
23		③町民による芸術文化ボランティアの発掘と人材育成に努める	運営ボランティア実行委員会事業への協力支援と人材発掘	A
24		④文化財の保護と活用、調査研究に努める	壮瞥町文化財審議会と壮瞥町郷土史料館友の会の連携強化	B
25		⑤歴史的記念事物の整備と維持に努める		
26		⑥郷土芸能の保護と継承者の確保・育成に努める	壮瞥町指定文化財の保存活用や無形文化財後継者育成の支援等	C
27	社会教育施設の整備	①地域交流センターの適切な維持管理と整備拡充に努める	壮瞥町地域交流センターの施設・設備の充実	B
28		②各施設の機能を活かした効果的な活用を促進する	図書分室及び遊学館の活用	B
29		③学校開放事業での学校施設の有効活用を図る	学校開放事業の充実	B
30		④老朽化等の既存社会教育施設の有効活用を図る	社会教育施設（社会体育施設含む）のあり方と再編	B

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	乳幼児・家庭教育	重点目標	地域移住民とのふれあいを通して親子の信頼関係を育む家庭教育活動の支援促進に努める		
	推進施策	絵本を紹介し読み聞かせを行うことで、乳幼児期から本に親しむための活動				
	具体的施策	乳幼児検診時のブックスタート事業				
	事務事業	乳幼児期への読書推進事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	年間6回実施される乳幼児検診時に絵本を手渡し、絵本をひらく時間の楽しさを知ってもらうことによって、親子のふれあいと良好な親子関係を築く					
事業の目的など	1 対象	乳幼児検診対象者(7ヶ月)と保護者				
	2 課題	核家族化や少子化が進む中、乳幼児を持つ保護者の学習機会の提供と子育て支援に関する様々な情報や機会を提供する必要がある				
	3 目的	ブックスタートを通して良好な親子関係と、乳幼児期から本に親しみ、保護者には読書推進について理解を深める				
	4 活動指数	講座受講者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		48千円	平成30年度予算	48千円	△
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無	
	11	12	16	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	ブックスタート事業は平成29年度より教育委員会主催事業として実施し、乳幼児期からの読書推進活動として位置づけ、読書人口を増加させるための取組としている					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	4	絵本を手渡したことによって、家に帰った後も、絵本に触れあえる時間を持つことのきっかけ作りになっている		4	親と乳幼児が絵本を介して親子が楽しく語り合う時間を持ち、絵本に触れるきっかけとなっている
	成果	4	ブックスタートパックを配布することで、読書に興味を持たせ図書室を利用するきっかけとなることが期待が持てる		4	保護者が絵本に関心があるなしに問わらず赤ちゃんに絵本が届けられる
	費用対効果	3	乳幼児期から読書環境に親しむことにより、読書嫌いや活字離れが解消され学力の向上にも期待ができる		3	親子で図書室を訪れる人の数が不明
総合判定	B					
ア(継続)	カ 一時休止	理由 乳幼児健診時に本の紹介や絵本を配布することで読書に興味を持つ事につながる。図書ボランティアや読み聞かせボランティアと連携し、本の楽しさを伝える機会とする。また保護者を対象とした講座などを工夫し親子で図書室に来館する人数を増やしていく取り組みとしたい				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	乳幼児・家庭教育	重点目標	地域移住民とのふれあいを通して親子の信頼関係を育む家庭教育活動の支援促進に努める		
	推進施策	親子で参加できる体験活動を通して「親力」を身につけ良好な親子関係築く取組の推進				
	具体的施策	親力つむぎ事業～壮警まんきつDAY				
	事務事業	家庭の教育力向上につながる家庭教育支援事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	親力つむぎ検討チームの企画による親子体験型の取組と家庭教育支援に関する講話や生活習慣に関する取組や啓蒙、啓発資料を発行する					
事業の目的など	1 対象	町内在住小学生と保護者及び一般町民				
	2 課題	家庭教育支援の取組とアウトメディア、生活習慣を整える取組も兼ねて事業を組み立て一定の成果がっているが、より多くの保護者等に参加してもらうための魅力ある内容を検討する必要がある				
	3 目的	町内の保護者に対し、いじめ問題や子育て、家庭教育支援について学習する機会を提供することにより、家庭の教育力向上を図り子どもの健やかな成長を促す				
	4 活動指標	講座受講者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		240千円	平成30年度予算	124千円	△
活動指標の変化	実績				事業根拠	
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有(無)	
	73	56	46	補助金	道費補助金	
事業の推進状況(成果)	平成26年度より北海道教育委員会の委託事業として実施し平成27年度からは町の事業として継続し親子体験活動や教育講演会、スポーツ体験を実施し親力の向上と保護者の課題解決につながる取組となっている					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	4	毎回参加者アンケートを探っているが親子体験プログラムは満足度が高いが、教育講演会に魅力を感じていない		4	保護者が、子育てや家庭教育において、子どもの成長の段階に応じた子どもとの関わり方を学び、理解し、実践する力を養うために必要な
	成果	3	当初の目的の一つでもある保護者を対象に子どもを取り巻く様々な課題や子育ての悩みを解消する取組が薄くなっている		3	親子が触れ合う機会となっているが、子育てに関する悩み・不安に関する学ぶ機会となっているのか疑問
	費用対効果	4	学校・家庭・地域連携事業補助金を受けて実施していることから、経費面では問題ない		4	補助金の活用
総合判定	B					
ア 継続	カ 一時休止	理由 当初の目的でもある保護者に対して教育する取り組みを検討し実施することと、引き続き規則正しい生活習慣の定着、子育てに関する悩みや不安など家庭教育支援となる取り組みをうまく組み合わせ、効果的な事業としていく				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	少年教育	重点目標	地域の教育資源の特色を生かした教育活動と、青少年の豊かな心と生きる力を育む学習機会の提供		
	推進施策	郷土の文化や自然体験、歴史などの学習機会のため講座を開設				
	具体的施策	子ども郷土史講座の開設				
	事務事業	地域学習に対応した講座の開設				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	年間4~5回程度、郷土の歴史、火山等について学習し、郷土やジオパークについて理解を深める取り組みを実施する雰囲気					
事業の目的など	1 対象	町内小学3年生~6年生				
	2 課題	子どもたちが安心安全に学べる環境づくりと、町の特色ある豊かな自然を生かした環境学習や、火山、防災学習などの取り組みを進め、自分たちが住んでいる地域が好きになる学びの提供に努める				
	3 目的	自分たちの郷土の自然の様子や歴史を学習することにより郷土についての理解を深め、関心を高める				
	4 活動指数	講座受講者数				
事業予算(単位千円)		平成29年度予算	90千円	平成30年度予算	90千円	△
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無	
	48	67	35	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	自分たちの住んでいる町に興味関心を抱き、郷土愛を育むと共に、火山学習や自然学習をすることで社群につけての理解を得られている					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	5	地域資源や地域の教育力を十分に生かし、郷土愛を育む事業として住民からも認識されている取組である		5	小学生の段階から自分たちが住んでいる地域のことを知り、自らの命は自ら守る意識付けを通して学べる機会であるため
	成果	3	火山と共生する地域として防災や減災の学習をしていることから、子どもたちの防災に対する意識が高い		3	同じ児童の参加が多い
	費用対効果	3	道民カレッジ連携講座として実施していく、繰り返し受講する児童も見られる他保護者も参加する場面があり、多様な学習機会の提供が図られている		3	4回合計の参加率は13~25%。対象学年の間に1度は有珠山・昭和新山に登らせたい
総合判定	B					
ア 繼続	カ 一時休止	理由 郷土愛を育む事業として必要であり必要な取り組みは全児童に体験させたいことから、学校と連携した事業展開ができないか検討し改善していく				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	少年教育	重点目標	地域の教育資源の特色を生かした教育活動と、青少年の豊かな心と生きる力を育む学習機会の提供		
	推進施策	国際的な視野と感覚を養い、壮瞥町の英語教育の中核事業				
	具体的施策	中学生フィンランド国派遣事業				
	事務事業	国際感覚の取得と英語力向上の取り組み				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	中学生を対象にフィンランド国へ派遣し、壮瞥町の友好都市であるケミヤルヴィ市でのホームステイをし、親善大使として派遣する					
事業の目的など	1 対象	中学2年生で派遣を希望する生徒と引率者				
	2 課題	この事業は平成19年に教育委員会の答申に基づき、現行方式での派遣は平成32年度までとする町の方針がある。その後の交流の在り方については適切に判断するとしているが、町民の声を尊重できる取組としたい				
	3 目的	フィンランド国ケミヤルヴィ市との友好都市宣言に基づき21世紀を担う子どもたちの見聞を広げ国際的な視野と感覚を持って国際化の時代に対応できる人材を育てる				
	4 活動指標	派遣者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		12,857千円	平成30年度予算	13,084千円	
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有(無)	
	33	21	23	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	中学校の英語の授業で「フィンランドタイム」を設け英語やフィンランド語での会話等に取り組んでいることで、外国語に対する苦手意識が薄れ、積極的に使用する意識が高まっている。出発式や到着式などにおいても積極的に英語でスピーチをする。フィンランド国への派遣中にはホストファミリーに身振り手振りを交えながら積極的に交流を深めるなど、本町の英語教育の中核事業として事業効果は上がっている					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	4	PTA連合会より継続に係る要望が出たり、住民の関心は高く今後の在り方については町民の意見を聞きながら進めていく		4	グローバルな時代を迎えるにあたり早いうちに国際感覚を養うことは重要
	成果	4	授業での取組や事前研修、派遣事業で着実に外国語に対する積極性を感じられる。今年度からケミヤルヴィ市へ1名留学している		4	中学生の外国語能力が高くなっているとはいえないが、関心は高くなっている
	費用対効果	3	現行制度での派遣終了年度を見据え、町長部局と協議を行い方向づけに取り組む		3	約1000人のこれまでの参加者の活動やキースト・クラブの活動がホームステイの受け入れ以外みえない
総合判定	B					
ア 継続	カ 一時休止	理由 これまでの実績と経験をおさえ、学校における英語教育の中核事業という事を再度意識し、また民間での交流のあり方なども検討していく。また町長部局と協議、判断の結果を踏まえ、今までの取り組みを尊重し派遣や受け入れのあり方について検討していく				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	少年教育	重点目標	地域の教育資源の特色を生かした教育活動と、青少年の豊かな心と生きる力を育む学習機会の提供		
	推進施策	児童生徒が優れた芸術を鑑賞することにより豊かな感性や個性を育む				
	具体的な施策	児童生徒芸術鑑賞会の実施				
	事務事業	優れた芸術の鑑賞と芸術文化の理解				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	毎年小学生対象、中学生対象の音楽系と演劇系を隔年で実施している					
事業の目的など	1 対象	町内小中学生及び一般町民				
	2 課題	毎年北海道巡回小劇場事業の補助を受けるため申請は出しているが2~3年に一度の割合での補助が決定しない状況である。今後も継続したいが町単費での開催に理解が得られるかが課題である				
	3 目的	児童生徒が様々な芸術文化に触れる機会をもつことができるよう、日頃、舞台芸術を鑑賞する機会の少ない地域の児童生徒を対象に、学校体育館等の身近な会場で、児童劇、影絵人形劇、音楽及び伝統芸能の鑑賞機会を提供することにより、時代を担う児童生徒の豊かな感性や個性を育むとともに、芸術文化を理解し、大切にする心を養う				
	4 活動指標	観客数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		463千円	平成30年度予算	463千円	△
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無	
	155	104	134	補助金	道費補助金(毎年採択ではない)	
事業の推進状況(成果)	児童生徒が優れた音楽や演劇である芸術作品を鑑賞することで、豊かな感性が育まれ芸術に対する関心も高まり児童生徒の健全育成にもつながっている					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	4	次代を担う子どもたちの成長にとって、優良な体験や経験が必要であり、芸術鑑賞はその一つでもあることから継続する必要がある		4	地域柄、生の演劇に触れる機会が少ない児童にとって、すぐ手が届きそうなほど近い距離での鑑賞は、役者の生の声や動作に触れられただけでなく、大掛かりな舞台の仕掛けや音楽、照明等を間近に見たり感じたりすることができて、貴重な体験となる
	成果	4	演劇や音楽を見たり聞いたりすることで学芸会や学校祭の参考となったり、部活動への参加も期待できる		4	子どもたちの芸術への関心の高まり
	費用対効果	4	児童生徒を対象に開催している唯一の鑑賞事業で豊かな心を育む事業として継続したい		4	補助金を有効に活用し、義務教育期間中5回程度鑑賞ができる
総合判定	B					
ア 継続	カ 一時休止	理由 児童生徒に生の舞台芸術を鑑賞し芸術文化への関心が高まることから補助金を利用し継続させる。また、壮瞥町地域交流センター運営ボランティア実行委員会事業と連携するなど、子どもたちに生の芸術に触れる機会の拡大につなげていきたい				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	少年教育	重点目標	地域の教育資源の特色を生かした教育活動と、青少年の豊かなひと生きる力を育む学習機会の提供		
	推進施策	日本の伝統行事を体験				
	具体的施策	新春書き初め大会の開催				
	事務事業	日本の伝統文化の理解				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	毎年1月に小中学生を対象に書き初め大会を開催し各賞を与える					
事業の目的など	1 対象	町内小学1年生から中学3年生				
	2 課題	毎年の参加者が少しずつ減少している傾向にあることから、日本の伝統文化を体験する機会として開催していきたい				
	3 目的	毎年恒例の新春に行う日本の伝統行事として開催することによって、日本人の心、情操を高めることを目的とする				
	4 活動指標	講座受講者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		115千円	平成30年度予算	115千円	△
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有 [○] /無 [□]	
	44	31	23	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	毎年お正月の伝統行事として開催し参加する児童生徒は課題に向かい集中して書いている。書道を通して情操や集中力を養える良い機会となっている					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	3	各学年の課題を定期的に変更するなど変化を与えるなど工夫し、日本の伝統行事として継続が必要		3	正月の伝統行事は、書き初めだけでなく、凧揚げやはねつき、福笑い、かるたなど他にもある
	成果	4	書道を通して書くことが好きになり、学習意欲につながることが期待できる		3	14~25%の参加率。この事業で学習意欲や書道人口に結びついていない
	費用対効果	4	子どもたちにとって日本の伝統を感じる良い経験ができる		3	学校の冬休みの課題として取り組むことや子ども郷土史講座の一プログラムとして実施できる
総合判定	C					
ア 繼続	カ 一時休止	理由 古くから継続している取り組みではあるが、学習意欲につなげられていない現状を押さえ学校の課題として取り組んでもらえるのなら連携した事業としたい				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	少年教育	重点目標	地域の教育資源の特色を生かした教育活動と、青少年の豊かな心と生きる力を育む学習機会の提供			
	推進施策	将来を担う子どもたちの健全育成を図る					
	具体的施策	地域子ども会、子ども会育成連絡協議会への支援					
	事務事業	子ども会支援事業					
記入者	所属	生涯学習課					
事業の概要	壮瞥町子ども会育成連絡協議会として、カルタクラブ、かるた大会、軽スポーツ交流会を実施している。また派遣事業として、胆振子ども会育成連絡協議会の主催事業、スポーツ交流会、かるた大会、リーダー交流会、育成者研究協議会等へ派遣を行っている						
事業の目的など	1 対象	町内児童生徒及び地域子ども会育成者					
	2 課題	壮瞥町では長年地域子ども会において下の句カルタが盛んに行われてきて町内の大会でも盛り上がりを見せていたが、近年では参加チーム数も減少し胆振大会でも成績が収められなくなってきていている。そのようなことからカルタ人口を増やす目的でカルタクラブを実施している					
	3 目的	町内の子ども会活動が円滑に行われるよう、必要な協力や支援の取組を継続して実施する					
	4 活動指数	会員数数					
事業予算(単位千円)	平成29年度予算	120千円	平成30年度予算	120千円			
活動指数の変化	実績			事業根拠			
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無		
	153	167	178	補助金	町費補助金		
事業の推進状況(成果)	少子高齢化に伴い、地域子ども会も減少する中、子どもたちの健全育成と次代を担うリーダーを養成する意味で子ども会活動は重要であり、各種主催事業や派遣事業を実施することにより子どもたちの健やかな成長を促す取組を継続する						
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント	
	事業の必要性	3	地域子ども会は存続していることから、町内の子どもたちの健全育成に寄与するため必要な組織である		3	子ども会が衰退し無くなれば、子どもたちの地域での活動基盤が消滅することになる。当然、その影響は地域文化の祭等にも及び、多大な影響が予想される	
	成果	3	子ども会活動を通じて、リーダー養成や有意義な体験活動、仲間づくりなど青少年期にしかできない体験が出来る		3	活動がマンネリ化している。子どもの視点をもっと取り入れたり、全道・全国の情報や事例を生かしていくようにする必要がある	
	費用対効果	3	次代を担う子どもたちの健全育成のため事業継続は必要である		3	子ども会の補助金は、子ども会安全会の保険料、単位子ども会活動補助、行事運営費に使用していると思うので必要最低限の範囲だと理解する	
総合判定	C						
ア 繼続	カ 一時休止	理由 子供会活動は、地域での活動であり必要な取り組み。地域子ども会が衰退しないように支援するとともに、育成会の組織強化を図り必要な事業展開を実施する					
イ 充実	キ 廃止						
ウ 改善							
エ 縮小	ク 終了						
オ 他事業へ統合							

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	少年教育	重点目標	地域の教育資源の特色を生かした教育活動と、青少年の豊かな心と生きる力を育む学習機会の提供		
	推進施策	次代を担うリーダー養成のために各種研修会への派遣事業				
	具体的な施策	青少年の体験活動推進事業～ジュニアリーダーコースへの派遣				
	事務事業	中学生、高校生リーダー養成事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	中学生と高校生を対象に、ワークショップなどで地域課題についてグループ討議し解決策を導き出す研修等を実施し、自らの課題や町の課題に興味を持ち解決していく力を養える研修を実施					
事業の目的など	1 対象	町内中学生、高校生				
	2 課題	毎年中学生と高校生を派遣しているが、少子化により派遣する人材を確保するのが困難と思われることから、小学生対象のジニアリーダー養成の機会も必要となってくる				
	3 目的	中学生、高校生を対象に、ワークショップ等主体的な学習活動を通して本道の歴史、産業、自然環境やボランティア、福祉等について学び、地域活動やまちづくりに参画する青少年活動のリーダーを養成する				
	4 活動指標	派遣者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		40千円	平成年度予算	40千円	
活動指標の変化	実績				事業根拠	
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有 ^無	
	2	3	3	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	本件集は地域課題を見つけて、解決する方策を考え、それを実行できる人材をめざすとともに、各研修テーマの事例の魅力やすばらしさを感じ、他者に伝える表現活動を通して地域活動における実践力を身につける取組となっている					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	3	次代を担うリーダー養成の研修に参加することにより郷土の魅力を再発見し郷土愛を育む取組となっている		3	リーダー養成の機会が少ない中、他市町の生徒とも交流できる機会であるため
	成果	3	中学生、高校生が他の市町村参加者と交流し、地域課題の解決に向けたアクションプランづくり等を通して地域の良さやボランティア活動などの地域活動に興味をもつことができる		4	参加した生徒を中心に、子ども議会での質問等に生かしている
	費用対効果	4	地域の良さを客観的に見つめる視点や地域活動に主体的に取り組む意欲・態度を身につけることができる		4	地域活動やボランティアに参加する生徒が多い
総合判定	B					
ア 継続	カ 一時休止	理由 中学生、高校生の経験としてリーダーや集団の中心になるという意識を芽ばえさせる機会としては重要で、将来の町のに担い手となる人材の発掘につながる事業であることから、継続して派遣していきたい				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	成人教育	重点目標	生活課題や地域課題に対応した学習機会の提供や、主体的な学習活動を促し、団体活動や地域活動への積極的な参加促進を図る		
	推進施策	天体観測や星座にまつわる講座の開設				
	具体的な施策	夜空を見る集いの実施				
	事務事業	多様な住民の学習ニーズに対応する事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	年間10回程度、森と木の里センター天文台や地域交流センターで、天体観測や星座を観測し天文に関する地域や興味をわかせる取組を実施					
事業の目的など	1 対象	町民一般				
	2 課題	毎回の内容については望遠鏡で天体天文を観望し、天気が悪い日は夜空に関する講話や工作を行っていて毎回20名前後の参加者を得ているが、町外からの参加者も受け入れていて、町外の方がが多い場合もあることから、町内の参加者やサークルの育成にも取組む必要がある				
	3 目的	夜空に輝く星座を観望し、宇宙の世界に対する興味を奮起させ、知識と理解を深めるとともに学校教育関係者へも広く周知し、地域住民との親睦を図り、青少年の健全育成と愛好者の育成を目指す				
	4 活動指標	講座受講者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		60千円	平成30年度予算	60千円	
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無	
	144	159	145	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	毎回開催ごとにテーマを設定して観測会を実施することで、宇宙の世界に対する興味関心を奮起させ、地域と理解が深められている					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	2	町内の参加者数が年々減少している		3	施設の有効活用のため
	成果	3	10回目の最後の講座で星座の試験を実施しており、合格者が年々増えている		3	後継者指導者の育成が図られていない
	費用対効果	3	参加者がある程度特定されている傾向にあると思われる所以、プログラム展開の工夫が必要である		3	地域振興、まちづくりと結びつけた取組が必要
総合判定	C					
ア 継続	カ 一時休止	理由 施設の有効活用は必要だが、地域の児童生徒のための講座や町民が魅力を感じる事業に改善する必要がある				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮少	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	成人教育		重点目標	生活課題や地域課題に対応した学習機会の提供や、主体的な学習活動を促し、団体活動や地域活動への積極的な参加促進を図る		
	推進施策	郷土の魅力を再確認し郷土愛を育む取組					
	具体的な施策	成人式の実施					
	事務事業	成人者を対象とした事業					
記入者	所属	生涯学習課					
事業の概要	20歳を迎える成人対象者に案内し、式典と懇親交流会を実施する						
事業の目的など	1 対象	その年の成人対象者					
	2 課題	毎年対象者に案内し参加してもらい、交流会では節目の年にあたり決意などを述べる時間を設け、成人として自覚が持てる取組としている。また、令和4年4月1日から改正民法が施行され、成人年齢が18歳になることから、成人式の取り扱いをどのようにするか検討が必要					
	3 目的	当年度に当町中学校を卒業した生徒及び平成29年11月1日現在、当町に在住する該当期間生まれの方を対象にし、法律的にも一人前の社会人としての権利や義務を有することから、大人としての自覚を持たせ、今後の人生を着実に歩んでもらえるよう、人生の節目として式典を開催する					
	4 活動指標	参加新成人数					
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		155千円	平成30年度予算	125千円		
活動指標の変化	実績				事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有(無)		
	28	18	15	補助金	無		
事業の推進状況(成果)	懇親会の進行及び内容を青年会お願いし、抽選や新成人のスピーチなどを実施しながら全体を盛り上げてもらっている。中学校を振り返るビデオを放映し当時の担任からメッセージをもらうなど、新成人には好評を得ている。青年会からは成人式をよりよい形にするため積極的な意見提言をいただきており、今後も新成人の人数が減少する中、時代にあった式の運営に向け、取り組んでいきたい						
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント	
	事業の必要性	3	青年会の協力を得ながら実施し、年齢が近い方の意見などを参考にニーズを把握している		3	次世代を担う新成人に、社会の一員として認められる年齢に達した節目として新成人の門出を祝うため	
	成果	3	自分たちが生まれ育った町に愛着が持てるような内容も検討していきたい		3	少子化の中ではあるが、参加率はある程度ある	
	費用対効果	3	町内出身の成人者を祝う大切な取組として今後も継続したい		3	成人年齢引き下げ後の成人式の実施のあり方については、見直しが必要と考えるが、他自治体の動向等も見据えながら、十分な検討が必要と考える	
総合判定	C						
ア 継続	カ 一時休止	理由 毎年、成人者に近い年齢である青年会に協力を得ているなど、町を担っている町民との交流の場にもなっている。また、成人年齢の引き下げはあるが、管内他自治体の動向をうかがい、今までの20歳を対象とする事業として継続したい					
イ 充実	キ 廃止						
ウ 改善							
エ 縮小	ク 終了						
オ 他事業へ統合							

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	成人教育	重点目標	生活課題や地域課題に対応した学習機会の提供や、主体的な学習活動を促し、団体活動や地域活動への積極的な参加促進を図る		
	推進施策	町民の主体的な活動に対する講座の開設				
	具体的施策	壮瞥町生涯学習講座～マイプラン講座の開設				
	事務事業	住民のニーズに対応した学習機会の提供				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	既存の団体やサークル以外の活動で講座を実施する。住民を対象に5名以上で10回程度の講座を実施することを条件とする。その講座の講師に対して謝金を支出する					
事業の目的など	1 対象	一般町民				
	2 課題	多様化する生活スタイルにより住民のニーズは多様化しそれに対応するための講座であるが、今ひとつ住民に周知されていない。今後は生活課題や地域課題を解決するような講座の開設をめざすとともに地域の人材を活用するような内容に取り組みたい				
	3 目的	町民の学習ニーズに基づき自ら学習機会の場を設定し、各自で教室講座を開設し学習する				
	4 活動指数	講座受講者数				
事業予算(単位千円)		平成29年度予算	120千円	平成30年度予算	120千円	
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無	
	28	18	13	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	公民館文化教室から移行しマイプラン講座として実施し、住民の皆さんの学びを支援する場と、学んだしかを生かす場として取り組んでいく方向で、子育ての悩み解消や、男性が参加しやすい講座、地域課題解決のための講座の開設など工夫した内容に取り組みたい					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	2	今後も住民の学びを支援する講座として興味がある講座を把握し開設したい		3	生涯学習社会実現のため、市民の生涯学習意欲を促す必要があることから
	成果	3	住民学習意欲を高めるような内容と、学んだ成果が生かされる仕組みを工夫したい		3	町民が自発的に行っていることから、生涯学習社会に近づいていると考えられる
	費用対効果	2	少子高齢化が進む中、現役世代へのアプローチを的確にし、自主的に講座を運営するような取組としたい		2	今後の利用状況によるが、支援金額の減額などで幅広く利用できないか
総合判定	C					
ア 繼続	カ 一時休止	理由 町民が自ら学ぶ意欲を促すための事業だが、告知の方法、支援金額の工夫や改善が必要である				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	成人教育	重点目標	生活課題や地域課題に対応した学習機会の提供や、主体的な学習活動を促し、団体活動や地域活動への積極的な参加促進を図る		
	推進施策	女性の社会参加促進の取組				
	具体的施策	胆振女性リーダー派遣事業の実施				
	事務事業	地域づくりの担い手育成事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	胆振女性リーダー研修として、埼玉県嵐山で開催される男女共同参画推進フォーラムに参加し研修を行う					
事業の目的など	1 対象	町内在住の女性と男女共同参画に興味ある方で町教育委員会から推薦のあった方				
	2 課題	以前は女性団体の構成員から推薦していただき参加していたが、近年は参加希望者を発掘するのが困難な状況である。昨年度から参加対象も女性対象であったが、男女共同参画に参加している方となり、女性だけではなくなったことから参加者の確保に努めたい				
	3 目的	独立行政法人国立女性教育会館主催の「男女共同参画推進フォーラム」に管内の女性団体等の代表者や活動の中心となるリーダー等を派遣し、各地域における女性団体活動及び地域活動の活性化を図る				
	4 活動指標	講座受講者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		70千円	平成30年度予算	70千円	△
活動指標の変化	実績				事業根拠	
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無	
	1	1	0	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	事前研修と本研修、それから事後研修という流れで構成され、事前研修と事後研修は胆振管内の研修として、参加者の親睦と報告書作成に向けた研修としている。本研修は嵐山でのフォーラムへの参加で多くのワークショップの中から参加者の要望にあったワークを選択し参加する。参加者は全国の参加者とも交流親善を持つ機会でもあることから参加した満足度は高い					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	2	研修について住民への周知を確実に実施し参加者の確保に努める		2	女性のリーダー育成は必要だが、毎年同じフォーラムでなくても良い
	成果	3	事後アンケート等からも参加者の満足度は高く、自己研鑽の場としても有意義な研修と成っている		2	自己研鑽となっているが、女性団体の活性化につながっていない
	費用対効果	2	町内の女性リーダーや町のリーダーを養成する事業として期待できる		2	隔年派遣や道内の研修会に切り替えることが妥当
総合判定	C					
ア 継続	カ 一時休止	理由 女性団体研修の機会として必要な研修であるが、胆振女性リーダー研修には概ね派遣していることから、女性団体とも協議し本研修がよいのか、道女性団体の研修に多く参加させる仕組みに変えるのか協議検討していきたい				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	高齢者教育	重点目標	心豊かで生きがいを感じ、充実した生活を送るために学習機会の提供や豊富な経験や知識を地域に還元し、次世代と共に元気で活躍できる環境づくりに努める		
	推進施策	日常の不安解消や健康維持に向けた講座の開設				
	具体的な施策	壮瞥町山美湖大学の開設				
	事務事業	高齢者の生きがいづくり事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	年間10回程度、健康づくりや軽スポーツ、社会見学や趣味教養の講座などを実施と、年間5回程度の身体を動かすための部活動、大学院生の企画する講座を実施					
事業の目的など	1 対象	町内在住の60歳以上の方				
	2 課題	高齢者の生きがいづくりと居場所づくりのために、講座や取組の内容を工夫することと、参加者の意見やアンケートの内容を十分に反映できる取組が必要で、主体性を持って大学の運営に関わりを持ってもらうことも重要である				
	3 目的	高齢化社会を迎える、人々が社会の変化に対応した日々充実した豊かな生活を目指すため、健康維持と趣味教養の向上を図ることをねらいとして本大学を開設する				
	4 活動指標	講座受講者数(年累計・部活動含む)				
事業予算(単位千円)		平成29年度予算	255千円	平成30年度予算	255千円	
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有(無)	
	341	425	390	補助金	無	
事業の推進状況(成果)		毎回たくさん質問が出るわけがないが、真剣に話を聞き黙々と作業に取り組む姿勢が見られ自ら学習する意欲を感じる。学びの機会は貴重であると捉え大学に通うことが楽しみにしている方が増えている。また、開講式における年間計画立案や、院生企画会議などで自ら学びたい内容について発言するなど、自主的な学びに対する積極性が見られる				
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	3	開講式や院生企画会議における提案など、参加登録者の関心が高い内容を取り入れている		4	高齢世代に必要とされる課題をテーマに作成したカリキュラムを通じ、各活動に取組むことができている。また、学んだ成果を院生企画会議等での発表機会を通じ、自主的な学びに貢献している
	成果	3	昨年度より大学院生にいる特別企画の講座を実施し、自ら参画する意識の向上を図られている		4	学習の機会及び町民同士によるコミュニケーションの場として有効に活用されており、自治会活動等以外の社会参加促進に効果がある
	費用対効果	4	高齢者の学習の場、また外出の機会も提供しており、参加者に有意義な機会を提供している		4	一部の経費を在籍者負担することで、行政の公費負担軽減に効果があるものと考える。目標とする学生数が不明
総合判定		B				
ア 繼続	カ 一時休止	理由 高齢者にとって生きがいを感じ意欲を持って学ぶ場となっていると同時に、学生どおしのコミュニケーションを深める場となっていることから、今後も学習内容など学生の意見を反映したプログラムを考えていきたい				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	芸術文化・文化財	重点目標	町民が優れた芸術文化に触れ、豊かな芸術文化を創造し支えていく環境の整備を図るとともに、文化財の保護と収集、整備、活用を図り、時代への継承を積極的に進める		
	推進施策	住民による芸術文化ボランティアの活動と芸術文化鑑賞機会の提供				
	具体的施策	運営ボランティア実行委員会への協力支援事業				
	事務事業	芸術文化鑑賞機会の充実				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	壮瞥町地域交流センター運営ボランティア実行委員会の主催事業を年間4~5事業程度実施し、住民へ優れた芸術文化鑑賞機会の提供をしている					
事業の目的など	1 対象	町内外の地域住民				
	2 課題	事業ごとに参加者のニーズ把握のためアンケート調査を実施し要望に応えられるような内容を実行委員会で検討し、芸術的に文化価値の高い内容も考慮し住民の芸術文化意識の向上を図って生きたい				
	3 目的	優れた芸術文化事業の企画立案及び情報収集を図り、広く町民に情報を発信し、芸術文化の鑑賞機会を提供すると共に、壮瞥町の芸術文化の振興発展に寄与する				
	4 活動指標	来場者者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		3,000千円	平成30年度予算	3,000千円	△
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有(無)	
	835	836	1055	補助金	町補助金	
事業の推進状況(成果)	優れた芸術作品を鑑賞することによって、今後住民の芸術文化に対する意識の高揚を図り、自らの芸術文化活動に大きく反映されることが期待されます					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	4	毎回のアンケート調査により来場者のニーズを把握し多様な芸術鑑賞の機会としたい		4	芸術・文化に触れる機会を支援し、町民の芸術・文化に対する知識・感性等を高めるため必要な事業である
	成果	4	壮瞥町地域交流センター山美湖は開館10周年を迎え、今後も芸術文化発信拠点としての役割を担う		4	芸術・文化に触れる機会は貴重であり十分な効果を得ることができている。また、来場者平均は約900人で、大きな影響を与えることが出来ている
	費用対効果	3	運営ボランティア実行委員会の協力を得て事業の推進と、ボランティアの育成や人材確保に努める		3	町民と町民外の割合が不明
総合判定	B					
ア 繼続	カ 一時休止	理由 壮瞥町地域交流センター山美湖は平成20年12月に完成し、本町の芸術文化活動の拠点としてこれまで様々な事業を実施してきました。また、町文化祭や壮瞥中学校学校祭、壮瞥高校の意見発表会などに利用され多くの町民に親しまれる施設となっていることから、今後も継続した取り組みを実施していく				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	芸術文化・文化財	重点目標	市民が優れた芸術文化に触れ、豊かな芸術文化を創造し育えていく環境の整備を図るとともに、文化財の保護と収集、整備、活用を図り、時代への継承を積極的に進める			
	推進施策	芸術文化鑑賞機会の充実					
	具体的施策	芸術鑑賞ツアー					
	事務事業	芸術文化鑑賞事業					
記入者	所属	生涯学習課					
事業の概要	年間3~4回程度北海道道立近代美術館、札幌芸術の森美術館等の特別展や近隣で開催されるコンサートに見学するツアーを実施						
事業の目的など	1 対象	一般住民					
	2 課題	普段鑑賞機会のない優れた芸術作品や展示品またコンサート等の見学ツアーとして好評を得ていて今後も実施しようと考るが、山美湖多目的ホールでも開催できるような催しも検討したい					
	3 目的	芸術鑑賞ツアーを通じて、町外で開催の著名な舞台芸術を鑑賞することにより、多くの町民に生の芸術や高いレベルの芸術文化に触れてもらう機会を増やし、文化振興の意識高揚を図る					
	4 活動指数	参加者数					
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		20千円	平成30年度予算	20千円		
活動指標の変化	実績				事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無		
	82	74	46	補助金	無		
事業の推進状況(成果)	壮瞥町地域交流センター山美湖多目的ホールが完成して、優れた芸術文化に触れる機会を増やす目的と鑑賞の機会の充実で開催して評価を得ているところですが、ツアーに使用している町バスが古いこともあるため内容を検討する必要がある						
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント	
	事業の必要性	3	毎回開催して参加者には高く評価を得て、機会があれば又参加したいという期待をされている		3	芸術鑑賞事業が2本あり、目的があまり変わらない	
	成果	3	芸術性の高い美術展などの開催は困難としても、著名な方を招いてのコンサート等は山美湖多目的ホールでも実施可能である		2	参加した人が、壮瞥町地域交流センター運営ボランティア実行委員会のメンバーになるなどの成果がみえない	
	費用対効果	3	現在使用している町バスが使用不可となると、開催自体困難となる		2	1回の人数も少數であり、交通費以外は受益者負担にしてはどうか	
総合判定	C						
ア 繼続	カ 一時休止	理由 年間4~5回主に北海道立近代美術館の展覧会を鑑賞する事業となっている。舞台芸術については、地域交流センター山美湖でカバーされているが美術展覧会の鑑賞の機会としては本事業のみであることから縮小ながらも鑑賞機会を提供したい					
イ 充実	キ 廃止						
ウ 改善							
エ 縮小	ク 終了						
オ 他事業へ統合							

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	芸術文化・文化財	重点目標	町民が慣れた芸術文化に触れ、豊かな芸術文化を創造し支えていく環境の整備を図るとともに、文化財の保護と収集、整備、活用を図り、時代への継承を積極的に進める		
	推進施策	文化芸術団体等の育成と連携				
	具体的な施策	壮瞥町文化協会事業				
	事務事業	壮瞥町文化協会支援事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	壮瞥町文化協会は13団体が加盟して活動しています。文化協会としては加盟団体に対して補助金交付事業と壮瞥町文化祭を主催している					
事業の目的など	1 対象	一般町民、文化団体、各種サークル				
	2 課題	町内の文化団体、サークルは高齢化が進み若い方の入会等が困難な状況である。引き続き新たに加盟する団体やサークル活動を支援していきたい				
	3 目的	町文化協会の組織強化及び文化団体、サークルの文化活動活性化と加盟団体、個人の活動支援を図る				
	4 活動指標	加入団体数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		130千円	平成30年度予算	130千円	△
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有(無)	
	13	13	13	補助金	町補助金	
事業の推進状況(成果)	文化協会の主催事業である壮瞥町文化祭のステージ発表は、第2部の参観が多く入らないことから、来場しやすい時間帯や発表内容の工夫をして文化祭を開催していきたい					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	3	既存の団体の入会の促進と、若いう方が参加しやすい環境を整備したい		3	規約をもつ団体として組織がきちんとしており、補助金を交付する条件を満たしていると考える。文化行政施策、文化振興を支える貴重な組織である
	成果	3	芸術文化の発信拠点である地域交流センターでの活動は各団体盛んに行われ、壮瞥町の文化の発展に寄与している		3	団体交流も行われ、文化振興の内容が深まっている。文化祭なども、横の連携がどれ文化の質を高めることができる
	費用対効果	3	年に1回の発表機会である壮瞥町文化祭に向けて展示やステージ発表に参加するため盛んに活動している		3	事業計画、予算に見合った補助金を計上している
総合判定	C					
△ 継続	カ 一時休止	理由 壮瞥町文化協会に加盟している団体は13団体で、それぞれ毎週の練習や例会を実施し活動している。各団体会員の減少や高齢化という課題は抱えながらも町芸術文化の振興に寄与し、他の文化団体サークルとも文化協会主催の文化祭での発表に向けて活動していることから、継続した支援が必要である				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	読書活動の推進	重点目標	図書ボランティアや読み聞かせボランティアとの連携による読書推進活動の推進		
	推進施策	図書分室の活用事業				
	具体的な施策	図書分室事業の充実				
	事務事業	読書推進事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	毎月1回図書分室において朗読会や講座を実施し、施設の利用促進を図る					
事業の目的など	1 対象	一般町民				
	2 課題	図書分室の蔵書は専門書や図鑑等であることから利用者が多くない現状がある。図書分室の周知目的と一般向けの読書推進事業を実施することで分室の利用率向上につなげたい				
	3 目的	図書分室では、毎月1回一般住民を対象に朗読会だけでなく、読書推進に関する取組を分室イベントとして実施する				
	4 活動指数	参加者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		0千円	平成30年度予算	0千円	
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有 ^無	
	161	135	170	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	図書分室事業を実施することで、分室を周知し利用につなげていきたい					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	3	図書分室事業を知らない町民がいると思うので知つてもらうような工夫をしていきたい		3	図書分室の活用が必要なため。
	成果	4	図書分室事業をきっかけに図書分室について知つてもらっている。		3	温泉地区、仲洞爺地区、久保内地区などの足のない人たちへのサービスにはなっていない
	費用対効果	3	図書分室事業を実施することで図書ボランティアの発掘と養成が期待できる		3	ゼロ予算事業のため
総合判定	C					
ア 継続	カ 一時休止	理由 図書分室について、分室の図書貸し出しはほとんど無い状態であり、何のための施設か、目的は何かを精査する必要がある。その上で必要な事業を洗い出し改善していく必要がある				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	読書活動の推進	重点目標	図書ボランティアや読み聞かせボランティアとの連携による読書推進活動の推進		
	推進施策	子どもたちの読書活動を推進するための読書環境整備				
	具体的な施策	壮瞥町図書フェスティバルの開催				
	事務事業	読書推進事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	毎年1回壮瞥町地域交流センターにおいて、年ごとのテーマに沿った読書推進の内容を組み立てる。人形劇公演やおはなし会、工作や絵本展などを実施					
事業の目的など	1 対象	幼児から一般町民				
	2 課題	実施時期や時間帯に気をくばり、内容についても関係機関と協議し幼児から児童が興味を持つ内容になるように工夫し、成果のある内容としたい				
	3 目的	図書室を町民に広く周知するとともに、親子が一緒に読書を楽しむコミュニケーションの場を提供する。また、町内で活動する団体と北海道立図書館の協力のものと、本を読むこと、絵本を見ること、読み聞かせを聞くことなどを通して、親子の温かい人間関係を育む提供の場として「図書室」を活用してもらうよう周知することを目的とする				
	4 活動指標	来場者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		640千円	平成30年度予算	490千円	
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有 [○] /無 [□]	
	123	177	87	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	実施時期や内容の工夫がなされ、時間ごとに人の流れを作り各ブースの取組が円滑に進んでいる。今後も図書ボランティアと協力し実施していく					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	3	乳幼児や小学生低学年向けの内容であることから、読書に親しむ初期のアプローチとして継続したい		3	図書室や本に、興味をもってもらうには、インパクトのあるイベントが必要
	成果	4	町内で活動する団体に関わってもらうことで、地域のネットワークが広がり、図書室を広く周知することができている		4	対象が絞り切れていない事業となっている。年代、目的別にいろいろな企画が必要
	費用対効果	3	参加者人数が例年に比べて少なかつた。人形劇団を招聘する方が集客数が多い傾向が見られる		3	参加者が少ないので情報が伝わっていないとも思われる
総合判定	C					
ア 継続	カ 一時休止	理由 壮瞥町地域交流センターが完成してから実施している事業で町民の認識はあると思う。これまでに取り組んできた毎年のテーマに沿った内容を精査し、実施時期や対象を十分検討し今後も開催していく				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	読書活動の推進	重点目標	図書ボランティアや読み聞かせボランティアとの連携による読書推進活動の推進		
	推進施策	子どもたちの読書活動を推進するための読書環境整備				
	具体的施策	読書推進事業の実施				
	事務事業	読書推進事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	図書室の読書推進事業として、講演会、人形劇公演、学校ブックフェスティバルを開催している					
事業の目的など	1 対象	幼児～一般町民				
	2 課題	児童生徒だけに限らず町民が読書に親しむ機会を多く造り出すことで町全体で読書推進が図られることを目指します				
	3 目的	地域の子どもたちを中心に、普段触れることのない生の人形劇団や影絵劇団を招聘し、また、一般住民向けに読書の楽しさが理解していただけるような講師を招聘し講演会等を開催する				
	4 活動指数	参加人数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		640千円	平成30年度予算	490千円	△
活動指標の変化	実績			事業根拠		
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有・無	
	283	164	228	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	読書推進事業で幼児から大人まで各種事業に参加することで読書が好きになる町民が増えることを期待する					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	3	読書推進に係るさまざまなニーズに対応する取組を実施する		3	図書室や本に、興味をもってもらうには必要な事業だが、他事業との組み合わせなどを行い、体系化する必要性がある
	成果	3	事業を通して図書室の利用や読書意欲に繋がっていると考えられる		3	図書室の利用人数が不明のため
	費用対効果	3	北海道立文学館出前講座での講師招聘を利用し、経営面を抑えている		3	図書室にアクセスしにくい地域へのきめ細かいサービスを検討していく必要性はあろう。図書室へ足を運びづらい高齢の方々への働きかけも、あったらよいと思う
総合判定	C					
ア 継続	カ 一時休止	理由 読書推進事業は、様々な領域が対象となっているため、ターゲットを絞った事業の展開や山美湖図書室に足を運びづらい方々には、アップル広場や地域サロンと連携し、本の紹介や、図書ボランティアによる朗読会の出前講座の実施など内容を工夫しながら継続したい				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

社会教育事業評価シート

事業の位置づけ	領域	読書活動の推進	重点目標	図書ボランティアや読み聞かせボランティアとの連携による読書推進活動の推進		
	推進施策	図書分室の活用事業				
	具体的施策	図書分室事業の充実				
	事務事業	読書推進事業				
記入者	所属	生涯学習課				
事業の概要	毎月1回図書分室において朗読会や講座を実施し、施設の利用促進を図る					
事業の目的など	1 対象	一般町民				
	2 課題	図書分室の蔵書は専門書や図鑑等であることから利用者が多くない現状がある。図書分室の周知目的と一般向けの読書推進事業を実施することで分室の利用率向上につなげたい				
	3 目的	図書分室では、毎月1回一般住民を対象に朗読会だけでなく、読書推進に関する取組を分室イベントとして実施する				
	4 活動指標	参加者数				
事業予算(単位千円)	平成29年度予算		0千円	平成30年度予算	0千円	△
活動指標の変化	実績				事業根拠	
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	根拠法令	有(無)	
	161	135	170	補助金	無	
事業の推進状況(成果)	図書分室事業を実施することで、分室を周知し利用につなげていきたい					
事業の評価	項目	自己評価	判断理由		委員評価	コメント
	事業の必要性	3	図書分室事業を知らない町民がいると思うので知つてもらうような工夫をしていきたい		3	図書分室の活用が必要なため
	成果	4	図書分室事業をきっかけに図書分室について知つてもらっている。		3	温泉地区、仲洞爺地区、久保内地区などの足のない人たちへのサービスにはなっていない
	費用対効果	3	図書分室事業を実施することで図書ボランティアの発掘と養成が期待できる		3	ゼロ予算事業のため
総合判定	C					
ア 継続	カ 一時休止	理由 図書分室について、分室の図書貸し出しはほとんど無い状態であり、何のための施設か、目的は何かを精査する必要がある。その上で必要な事業を洗い出し改善していく必要がある				
イ 充実	キ 廃止					
ウ 改善						
エ 縮小	ク 終了					
オ 他事業へ統合						

資料 4

令和元年度第8次社会教育中期計画 「生涯学習に関するアンケート」 集計結果

令和元年9月

壮瞥町教育委員会

1. アンケート調査の目的

生涯学習社会の実現に向け、町民が活力ある生活を営み、生涯を通して健やかに充実した生活を送り、多様な学習機会の創出するために策定する、壮齢町第8次社会教育中期計画のための資料とするために、本調査を行った。

2. 調査方法と回収結果

①調査対象：下記の表の通り、それぞれのカテゴリーに属する対象者を無作為に抽出した。

保育園児保護者	小中学生保護者	青年～成人	文化団体高齢者	スポーツ関係者	
20名	70名	40名	30名	40名	
					計200名

②調査方法：抽出された調査対象に、アンケート調査表を送付した。

③回収方法：調査表に同封した返信用封筒により、郵送にて回収した。

④調査時期：令和元年度7月25日発送～令和元年度8月19日回収締切

⑤回収率：

対象者数	回答者数	回収率
200名	95名	47.50%

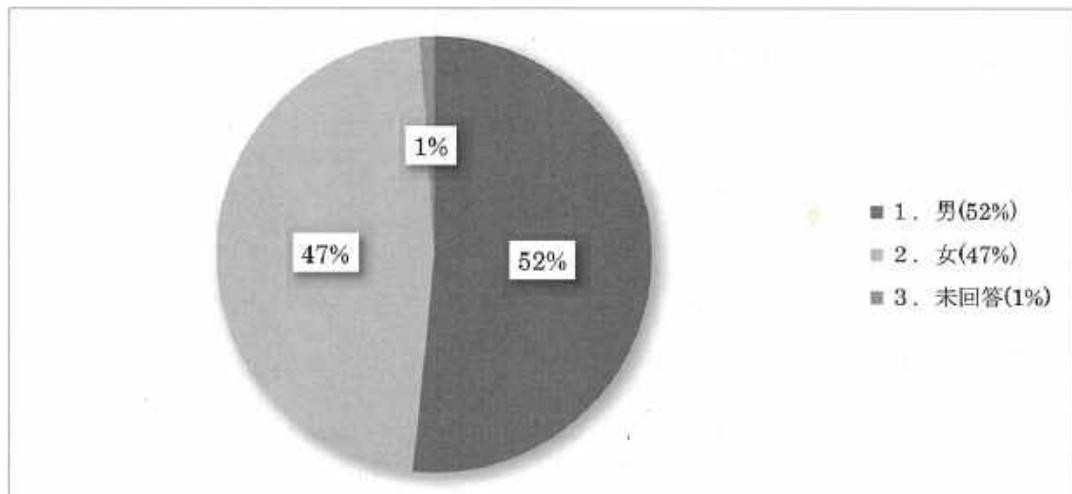
3. 調査結果

次項以降に掲載する。

問1 あなたの性別と年齢についてお聞きします。

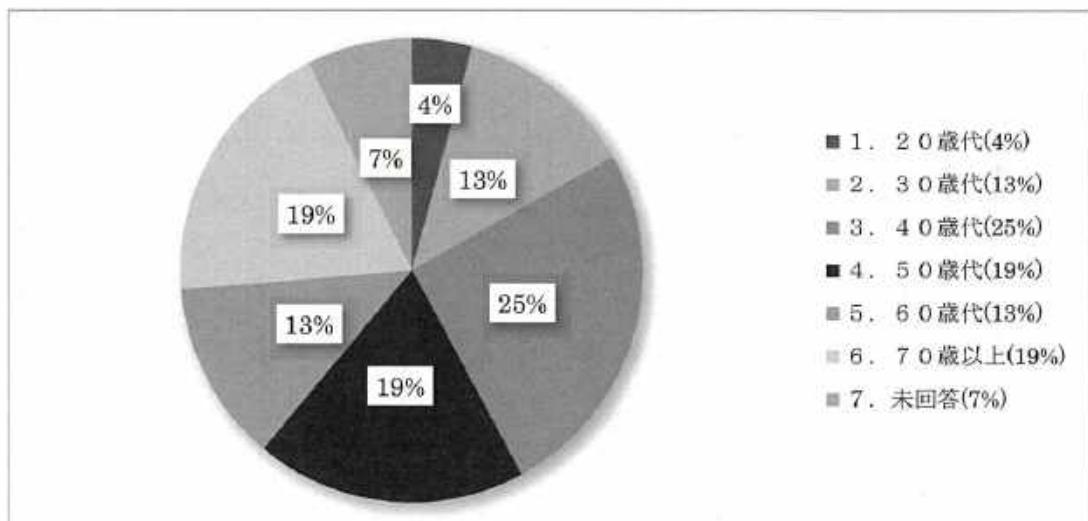
①性別

1. 男(52%)	2. 女(47%)	3. 未回答(1%)
49	45	1



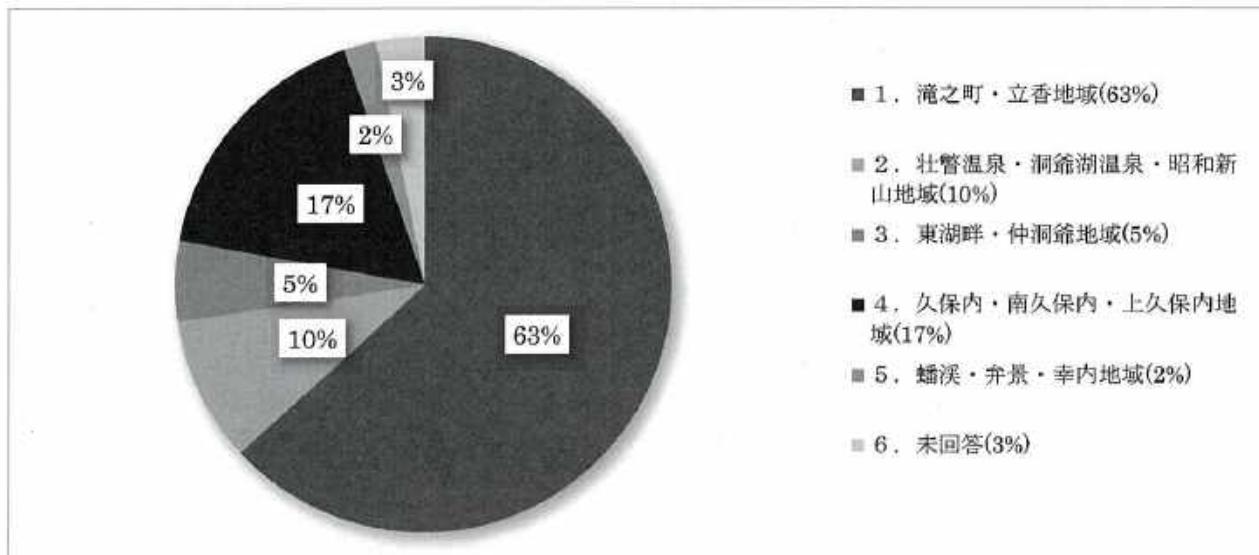
②年齢

1. 20歳代(4%)	2. 30歳代(13%)	3. 40歳代(25%)	4. 50歳代(19%)	5. 60歳代(13%)	6. 70歳以上(19%)	7. 未回答(7%)
4	12	24	18	12	18	7



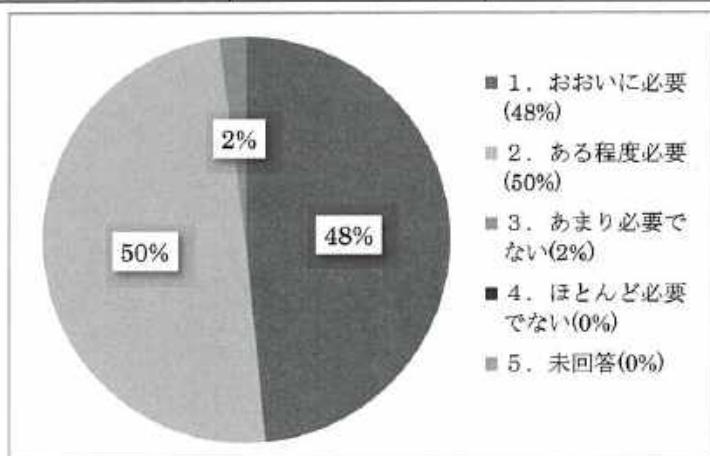
問2 あなたのお住まいの地域についてお聞きします。

1. 滝之町・立香地域(63%)	2. 壮瞥温泉・洞爺湖温泉・昭和新山地域(10%)	3. 東湖畔・仲洞爺地域(5%)	4. 久保内・南久保内・上久保内地域(17%)	5. 蟻溪・弁景・幸内地域(2%)	6. 未回答(3%)
60	9	5	16	2	3

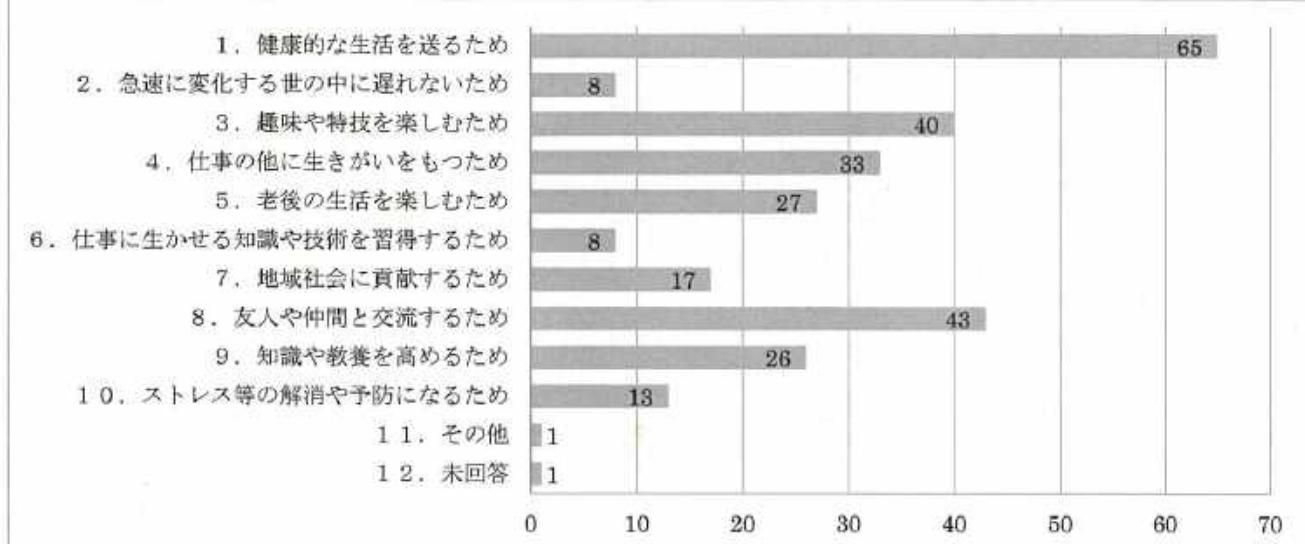


問3 あなたは、豊かな人生を送るために、生涯学習は必要だと感じていますか。1つ選んでください。

1. おおいに必要(48%)	2. ある程度必要(50%)	3. あまり必要でない(2%)	4. ほとんど必要でない(0%)	5. 未回答(0%)
46	47	2	0	0

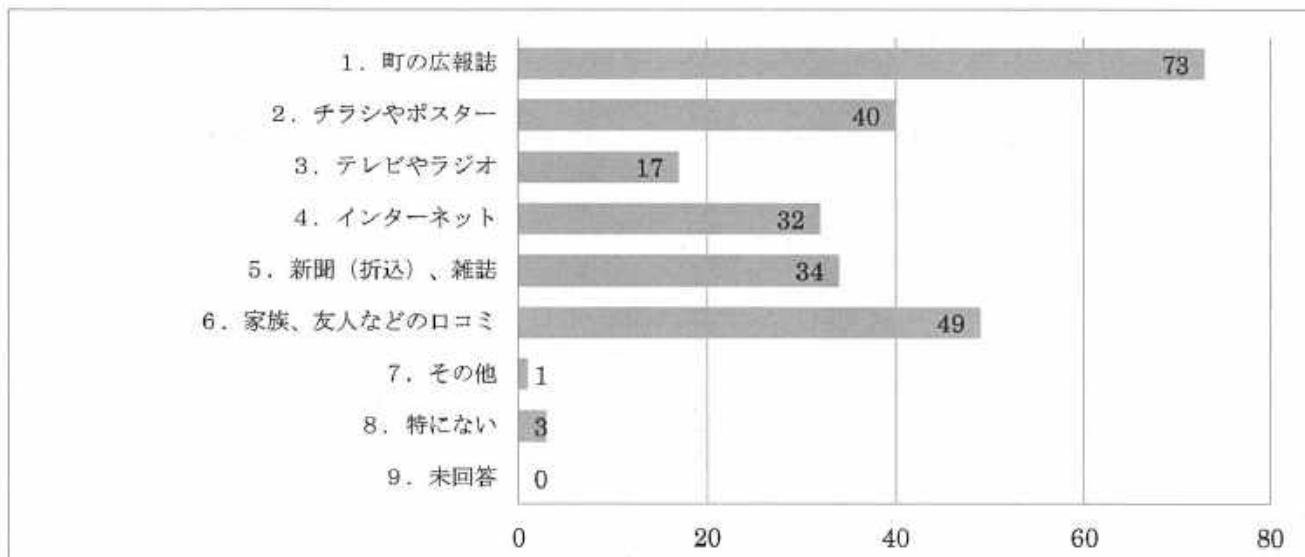


問4 問3で「おおいに必要」、「ある程度必要」と答えた方にお聞きします。あなたは、生涯学習が必要だと感じている理由を下記より3つまで選んでください。



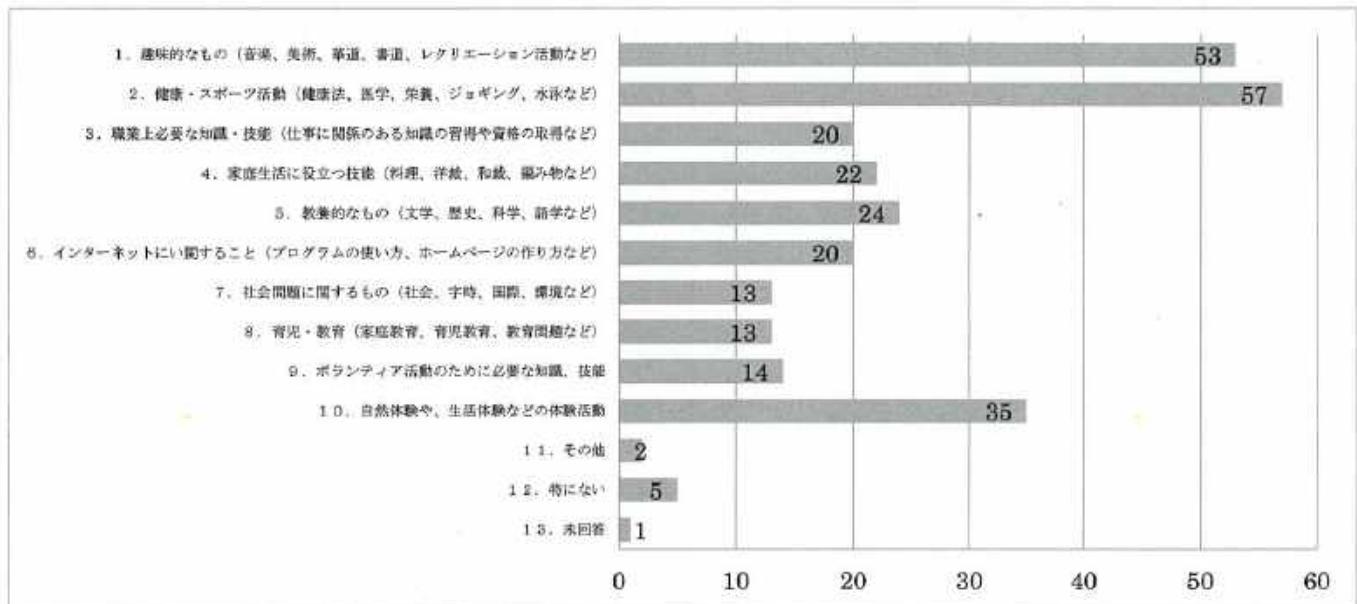
【11. その他】・家庭、学校、社会教育の根底につながる。

問5 あなたは、学習活動やスポーツ活動を行う中で、どこから情報を得ていますか。
当てはまるもの全て選んでください。



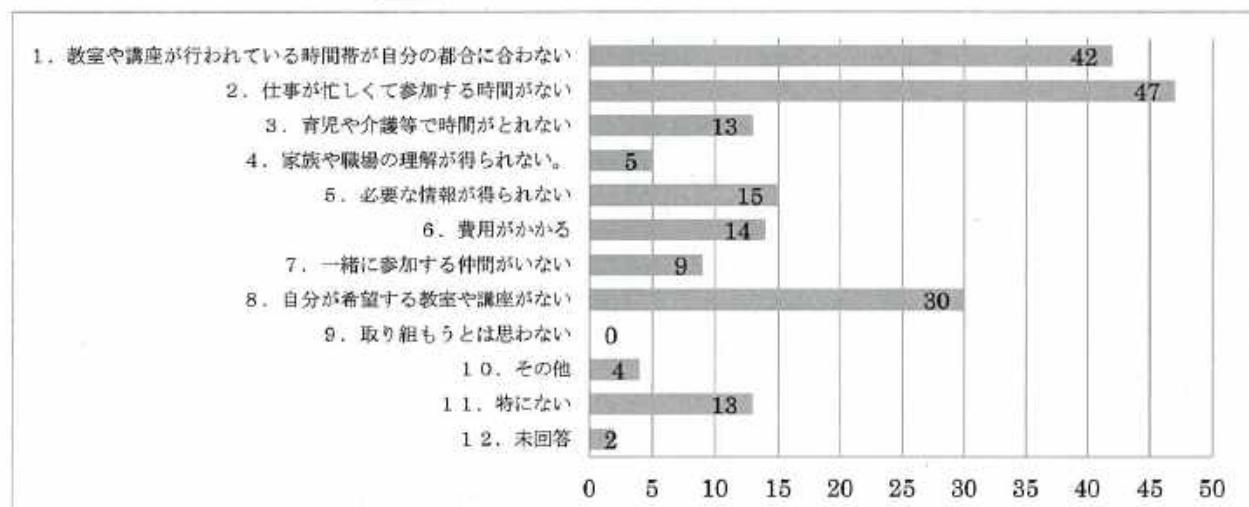
【7. その他】・学会情報・成功事例の講話

問6 あなたは、どのような教室、講座があったら参加したい、やってみたいと思いますか。
当てはまるもの全て選んで下さい。



【11. その他】・手話

問7 あなたは、学習活動やスポーツ活動を行いたいとき、どのようなことが妨げになりますか。あてはまるもの全てを選んでください。

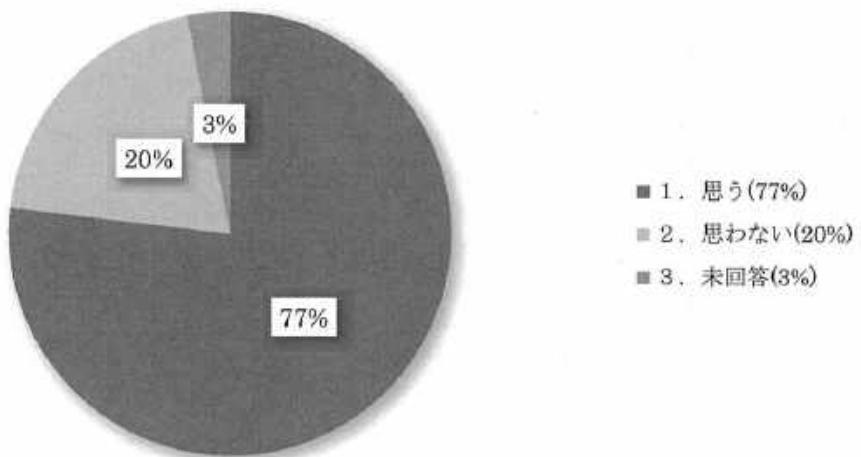


【10. その他】

- ・家族の理解があるが気兼ねしてしまう。
- ・募集人数が少ない
- ・季節的なもの。春～秋は外での活動。冬は室内での研修。春～秋は仕事の都合で参加できないことが多い。
- ・こもれびのボランティア等で私の身体には、精一杯かな。

問8 あなたは、教室や講座で身につけた知識や技術を地域や社会に生かしたいと思いますか。

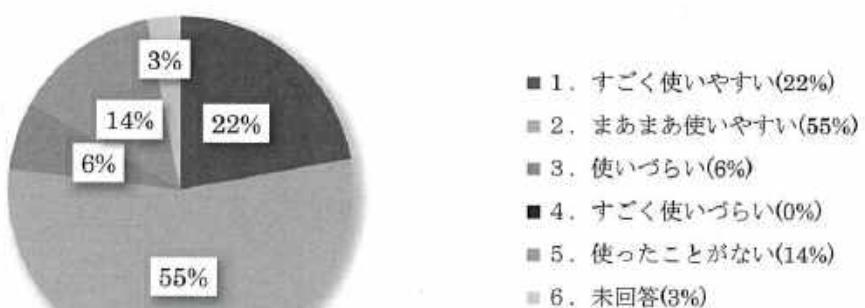
1. 思う(77%)	2. 思わない(20%)	3. 未回答(3%)
73	19	3



問9 あなたは、壮瞥町の社会教育施設、スポーツ施設（学校開放含む）についてどのように思っていますか。あてはまるもの1つ選んでください。

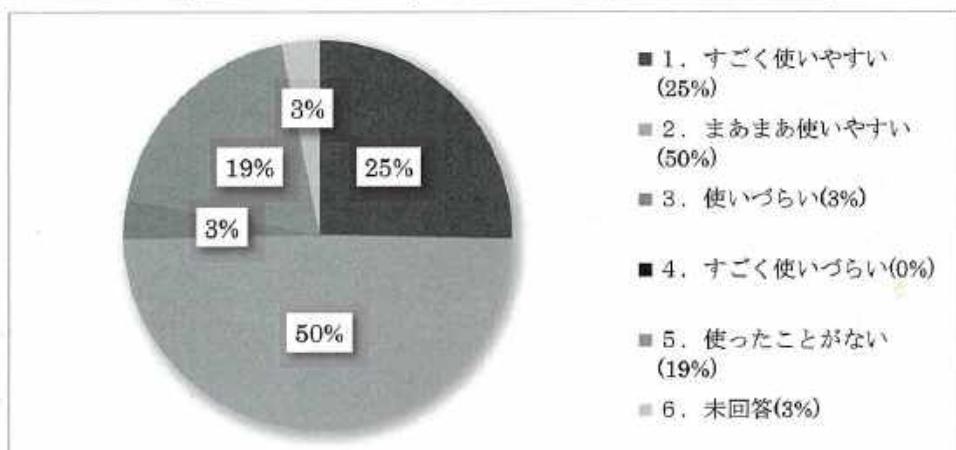
○壮瞥町地域交流センター山美湖（図書室以外の部屋）

1. すごく使いやすい(22%)	2. まあまあ使いやすい(55%)	3. 使いづらい(6%)	4. すごく使いづらい(0%)	5. 使ったことがない(14%)	6. 未回答(3%)
21	52	6	0	13	3



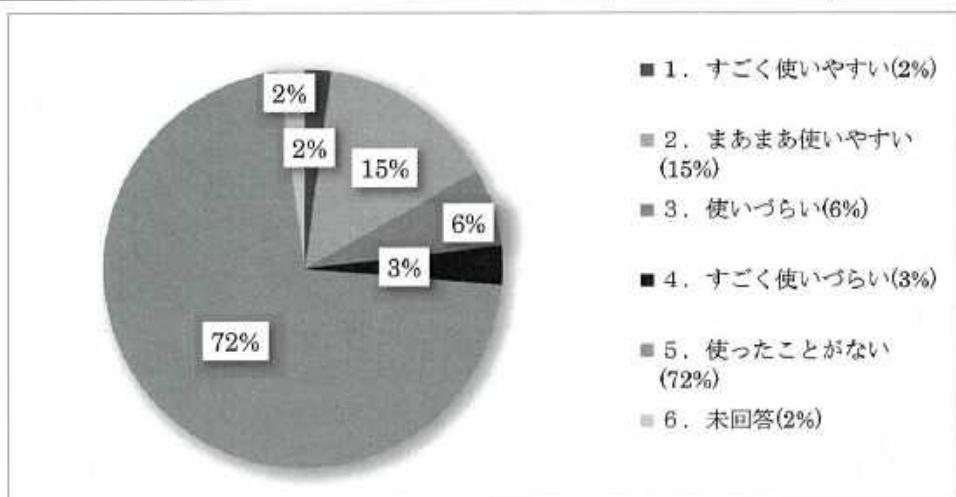
○壮瞥町地域交流センター山美湖・図書室

1. すごく使いやすい(25%)	2. まあまあ使いやすい(50%)	3. 使いづらい(3%)	4. すごく使いづらい(0%)	5. 使ったことがない(19%)	6. 未回答(3%)
24	47	3	0	18	3



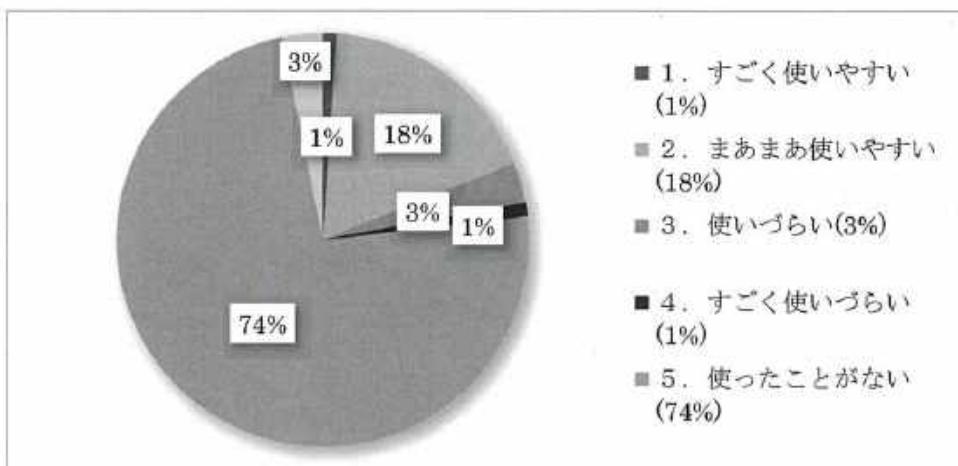
○壮瞥町図書分室

1. すごく使いやすい(2%)	2. まあまあ使いやすい(15%)	3. 使いづらい(6%)	4. すごく使いづらい(3%)	5. 使ったことがない(72%)	6. 未回答(2%)
2	14	6	3	68	2



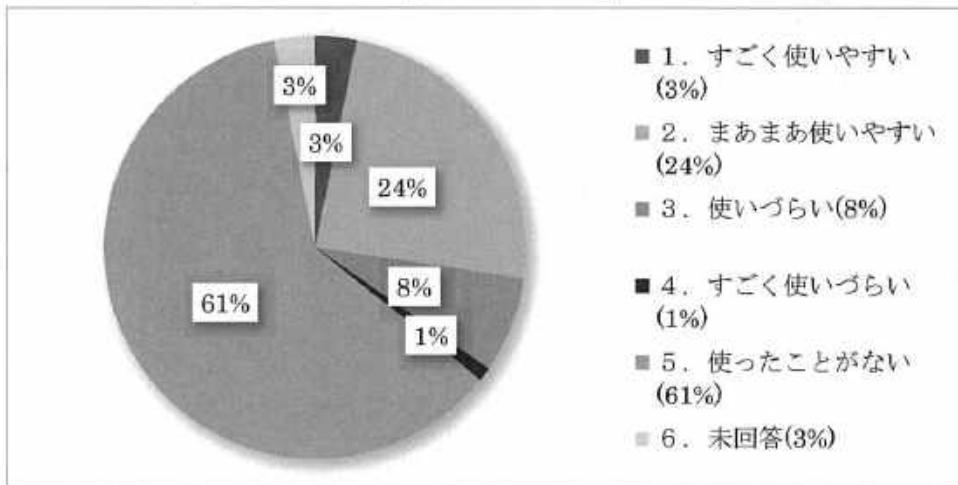
○壮瞥町遊学館

1. すごく使いやすい(1%)	2. まあまあ使いやすい(18%)	3. 使いづらい(3%)	4. すごく使いづらい(1%)	5. 使ったことがない(74%)	6. 未回答(3%)
1	17	3	1	70	3



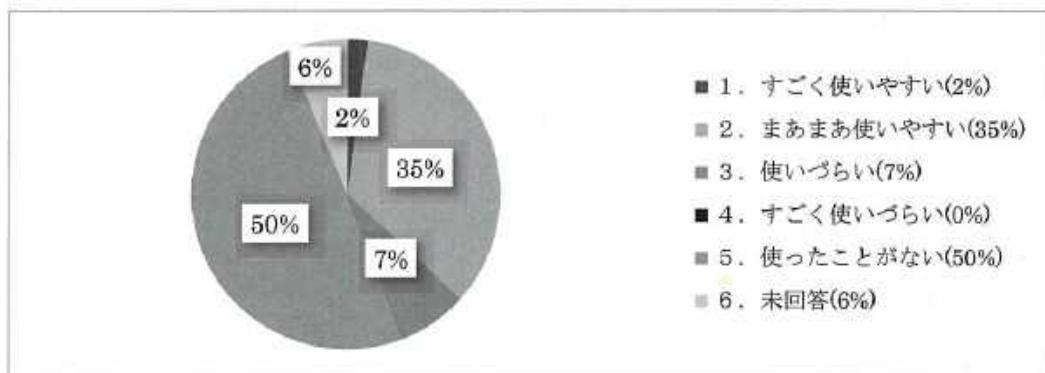
○壮瞥町青少年会館

1. すごく使いやすい(3%)	2. まあまあ使いやすい(24%)	3. 使いづらい(8%)	4. すごく使いづらい(1%)	5. 使ったことがない(61%)	6. 未回答(3%)
3	23	7	1	58	3



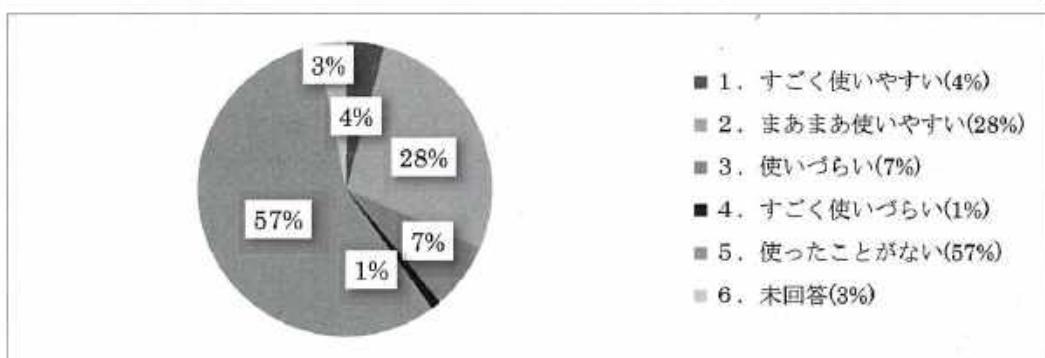
○壮瞥町総合グラウンド

1. すごく使いやすい(2%)	2. まあまあ使いやすい(35%)	3. 使いづらい(7%)	4. すごく使いづらい(0%)	5. 使ったことがない(50%)	6. 未回答(6%)
2	33	7	0	47	6



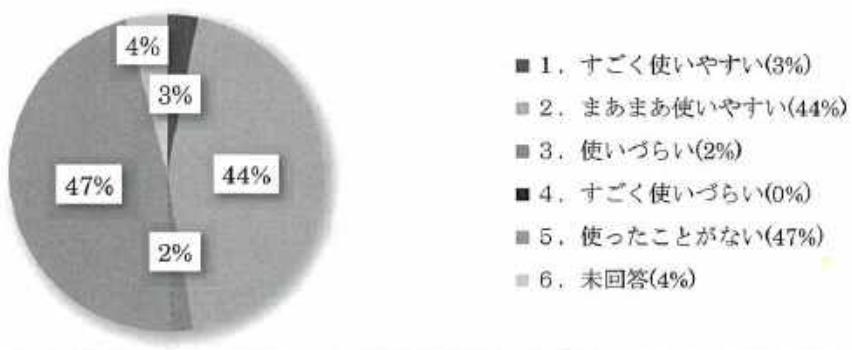
○壮瞥中学校プール（学校施設開放）

1. すごく使いやすい(4%)	2. まあまあ使いやすい(28%)	3. 使いづらい(7%)	4. すごく使いづらい(1%)	5. 使ったことがない(57%)	6. 未回答(3%)
4	26	7	1	54	3



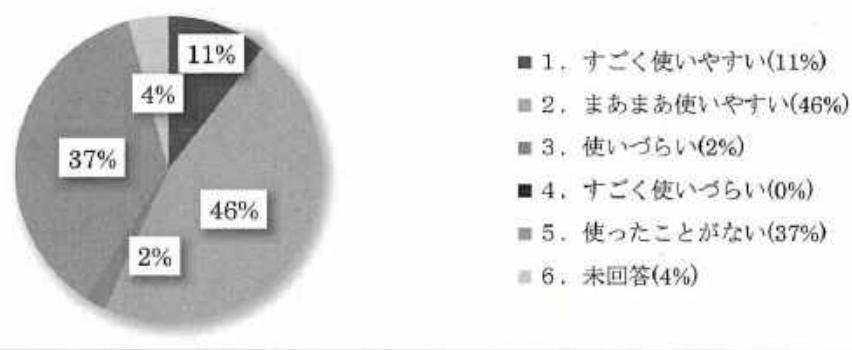
○壮瞥小学校体育館（学校施設開放）

1. すごく使いやすい(3%)	2. まあまあ使いやすい(44%)	3. 使いづらい(2%)	4. すごく使いづらい(0%)	5. 使ったことがない(47%)	6. 未回答(4%)
3	42	2	0	44	4



○壮瞥中学校体育館（学校施設開放）

1. すごく使いやすい(11%)	2. まあまあ使いやすい(46%)	3. 使いづらい(2%)	4. すごく使いづらい(0%)	5. 使ったことがない(37%)	6. 未回答(4%)
10	44	2	0	35	4



問10 あなたは施設を利用してどのような点が使いづらい、また、改善してほしいところ及び要望事項がありましたらお書きください。（特定の施設がある場合、施設名をお書き下さい）

【地域交流センター山美湖】

- ・壮瞥町地域交流センター？？？音響の？？（読み取れず）
- ・山美湖大ホールのステージに身障者用の階段を設置してほしい。山美湖の正面玄関前と役場の正面玄関入口左右の化粧ブロックの凸凹を改善してほしい「つまづく」。
- ・山美湖を借りたい時、土日が午後からになると、トイレが古いため使いにくいです。
- ・山美湖の和室、他の町と比べてせまいと思う。（きれいな窓は魅力）
- ・山美湖の図書室はインターネット環境（Wifi）があると大人の利用者も上がるのではないか？
- ・山美湖に授乳室があるのは有難いのですが、物置きのようになっていて使いにくい印象を受けました。（使用当時）、図書室に絵本が充実していて、小さい子から楽しめて大変ありがとうございます。
- ・山美湖に調理室があれば良い。

【青少年会館】

- ・老人クラブ「鶴亀会」は5月より、月例会や総会等あらゆる事業に使用している。
- ・消防第二分団後援会の付き1回の役員会及び総会に使用。
- ・お祭りの総代会打合せや総会の会議に使用（使用許可書を申請せずに口頭で予約できる）。
- ・冬場寒いです。暖房機どうにかしてほしいです。

【図書分室】

- ・図書分室で開館時間が極めて使いづらいと思う。週1回と言うのも首をかしげる。子供達も宿題が出来ないと言っている。もっと有効に使った方が良い。図書館は皆が使えるようにしてほしい。
- ・図書分室について…定期的な企画もあり、ボランティア活動も軌道に乗っているが、町民の利用を広げるためには、根本的な改革が必要。貴重な蔵書もあるので、書架の配置かえと新しい書架の購入が是非必要。屋根の雨もり放置は問題外。早急に改善してほしい。

【遊学館】

- ・よく利用しますが、雨漏りはするし、冬は暖房機が調子悪くなったりするので、そこが改善されるとありがたいです。エアコンも希望します。夏場に剣道中に熱中症で2回倒れたことがあります。

【紫明苑】

- ・年に何回か企画して（例：お茶会、絵本の読み聞かせ、郷土のおはなし）町民が足を運んでもらえるようにしては？（何年か前にやってとても雰囲気が良かったので…。）

【壮小・壮中体育館】

- ・壮中体育館（冬期間、玄関の力ギケースの番号が動かず、開けにくいです。もっと簡単な物があればと思います。）
- ・体育館等の体を動かす施設では、「学校開放」という形では気軽に利用しづらいです。平日の昼間でも「ちょっと体を動かしてこよう」という感じで気軽に行ける体育館施設があればなあと思います。

【総合グランド】

- ・自宅から近いこともあり、総合グラウンドに行く事があるのですが、トイレが使えるのか使えないのかよくわからず、結局自宅で用を足してまた戻ったりしています。あと、いつもサッカーゴールがあるのに、使えないのが残念です。せっかく広いグラウンドがあるので、野球以外あまり活用されていないようなので、もったいないと思っていました。
- ・総合グランドの水はけが悪い・もう少し広体育館があれば良い。
- ・グランドの老朽化がすごい。

【壮中プール】

- ・中学校のプールは古くてプールサイドもさびていてあぶない。全面改修はむずかしいのならば、プールサイドとシャワー室は直してほしい。子供達のプール教室に使うのだから優先してほしい。
- ・プールの更衣室が汚い。しょうがないけど…。
- ・老朽化が進んでいて、更衣室もトイレもシャワーも清潔感が無く、衛生面が気になる。
- ・ロッカーの清掃があまり行き届いていない気がします。

【農村環境改善センター】

- ・施設の名前を親しみやすい名前にしてほしい。
- ・ロビー内に合宿用の洗面所ができたので狭くて使いづらい。
- ・夏季は学生の宿泊に使っているが、壮瞥町の一年間の行事として日程が決まっている場合には、使用許可書の申請が出る前に優先的に確保してほしい。
- ・事務室については、ほとんど使用されていないが、会議事の受付や事務処理がある時には開放してほしい。

【保健センターの調理室】

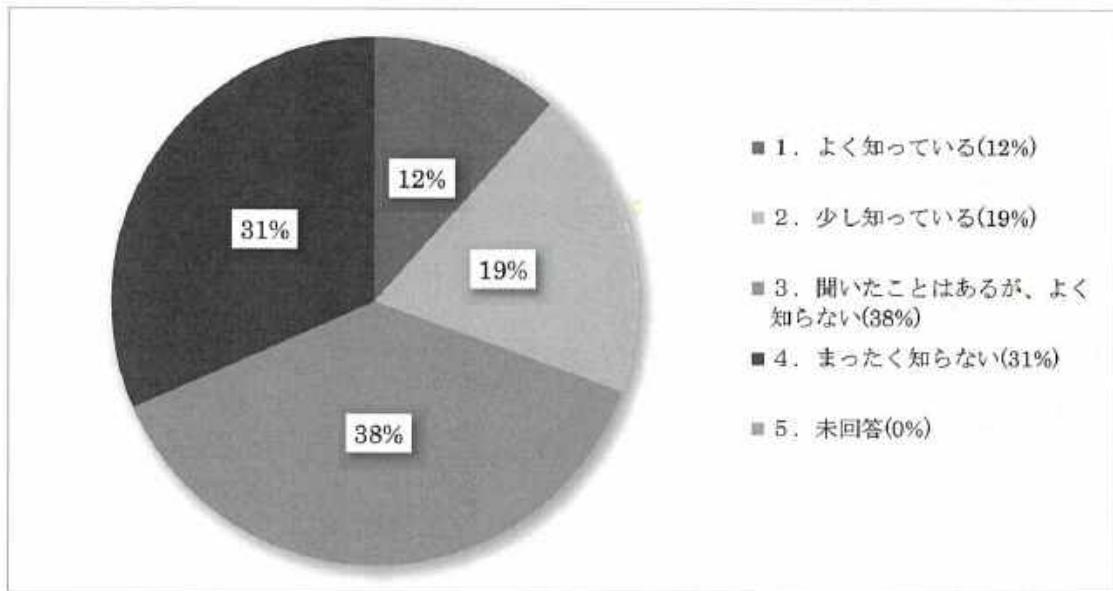
- ・冷蔵庫内に短時間しか物を冷やすことが出来ないので冷凍品は除外される。
- ・ごみの片付けは各自がお持ちかえりになるのは良いことですが、指定のごみ袋を買って、指定の日にごみを出すことはできないものか考える必要があるのでは…。

【その他】

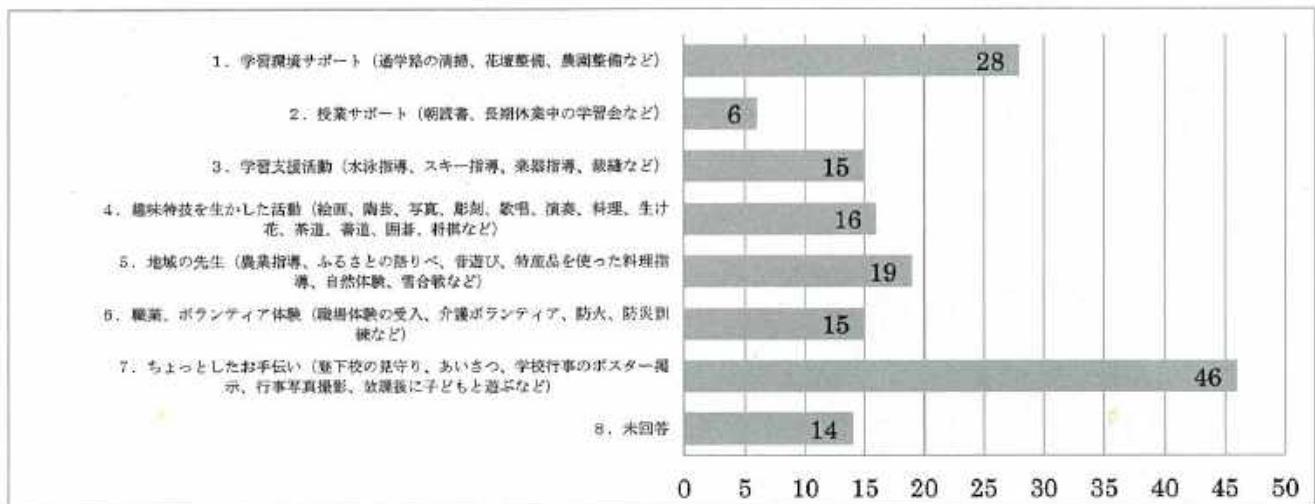
- ・使用したい施設がうまっている事が多い。
- ・グランド、小中高などの施設の使い方、活用方法を知る術がわからぬ。情報が少ない。スクール少ない。
- ・特に使いづらいとは感じたことはありません。
- ・暑さ寒さ
- ・町のHPを見れば「どこが」「どうすれば」使用できるのか、いつ使用できるのかまで分かるようになると利用しやすいと思います。HPで分からなく役場まで聞きに行っても担当者かいなくて、すぐに分からなかつたことがあり不便に感じました。
- ・どのような人が、どういう目的で、どのように、いくらで申込むことができるのかがわかるWeb上の発信が必要
- ・地域の行事で色々な施設を活用させてもらっています。しかし施設の老朽化が少し気になります。
- ・利用時の詳細、活用方法等を一覧にしてあると分かりやすい。利用者の活動内容を公表する。
- ・どの施設も老朽化しており管理も利用も若干不便
- ・どう使えばいいのか、何ができるのか、全く情報がない。
- ・長日園のケアハウスに月2回行き、話を聞いたり、みんなが喜ぶ姿と顔が何より嬉しいです。入所している方には小さな菜園があり、カボチャ、さつまいも、花など植えに行きますが、手が届かない場所もあるので、コスモス等で花いっぱいにしてあげたい。私がされたら嬉しいと思う事を仲間でやっています。
- ・今自分が利用している施設で満足しています。
- ・曜日、日時を決めた一般開放にすると使いやすい。

問1.1 あなたは、壮瞥町全学校で取り組んでいる「コミュニティー・スクール」のことを知っていますか。あてはまるもの1つ選んでください。

1. よく知っている (12%)	2. 少し知っている (19%)	3. 聞いたことはあるが、よく知らない(38%)	4. まったく知らない (31%)	5. 未回答(0%)
11	18	36	30	0



問12 あなたは、学校（児童、生徒）に対して応援団としてのサポートや学校を支援する活動で何が出来ますか。あてはまるもの全て選んでください。



問13 あなたは、壮瞥町の子どもたちが、どんな子どもに育ってほしいですか。ご自由にお書き下さい。

- ・責任感のある人
- ・素直で優しい子ども
- ・自然に囲まれた壮瞥でのびのびと大らかに育ってもらいたい。また子どもたちが大人になり、昭和新山、有珠山、洞爺湖など自然豊かな地を色々な人たちに発信してもらえたならと思います。
- ・洞爺湖のように、ゆったりとのびのびとすこやかに育ってほしいです。
- ・自然の中で仲間と協調し、課題解決力を身に付けてほしい。※過保護・過干渉の傾向が年々増していると感じた。
- ・自由にのびのびした明るい子であってほしい。
- ・健康で常識ある子ども。
- ・大人になった時に、自分の住んでいる町の良さや壮瞥の素晴らしさを他の地域から来た人に伝えられる子になってほしい。
- ・自発的に行動できる思いやりのある子。
- ・自然とふれあえる中で育ってほしい。
- ・毎月1回位、地域の子どもたちとふれ合う気持ちで学校に行っておりましたが、久小が休校になってから縁が切れたかの様に学校には行っておりません。休校日の時、街で出会った生徒に、「壮小の事を聞きますと「友達がたくさん出来て楽しい」と言ってました。のびのびと元気に勉強していることが伺えます。このまま素直に育ってくれると思います。

- ・明るくて、自分の意見をはっきり言える子。他人の話をしっかり聞く子。
- ・何事にも物怖じせず、積極的な子。いつどこでも元気にあいさつの出来る子。体を動かすのが好きな子。
- ・社会に貢献できる子に育ってほしい。
- ・大人になっても壮瞥愛にあふれた子どもに育ってほしい。
- ・自由な発想を表現できる子ども。いろんな価値観を受け入れられる子。あいさつなどもできる子（当たり前の様で、照れからなかなかできない子も多いです）。
- ・素直で伸びやかに。元気に挨拶ができるように。
- ・色々な世界に飛び出すことのできる人。
- ・物や人に感謝できる人に。
- ・たくましく元気な子ども。壮瞥にこだわらない広い視野をもって活動できる子
- ・大人になって、いろんな町外に出て行くと思いますが、壮瞥の子どもたちが大人になった時に「地元」を見下さない、「地元」を愛する大人に将来なってほしいなと思います。
- ・地元に誇りを持って、どんな場所でも活躍できる人。
- ・思いやりの心をもった子。
- ・自分の考えをはっきりと伝える子。・健康で人に迷惑かけない人
- ・生きる力を備え、自分で考え判断できるような子どもに育ってほしい。今の子どもたちはあつとうてきに外遊びをしていない（ように感じる）。ゲーム、スマホに依存せず自分の想像力を發揮できる子に育ってほしい。大人はそのサポートが必要だし、大人が子どもに与えてすぎてはいけない。
- ・思いやりのある子供・自立できる子供
- ・しっかりと人の目を見て話せる子・出来れば挨拶できる子になってほしい
- ・他者に優しく、自分に厳しい子ども
- ・明るく元気な子
- ・大人になって壮瞥で就職してくれるといいですね。
- ・豊かで美しい自然に恵まれた土地なので、のびのび自由におおらかに育ってほしいです。
- ・あいさつができる、人の話をきける等、基本的なことがちゃんとできる子どもに育ってほしいです。
- ・最近の子供は野山で遊ばないので虫がにがてな子が多い。ごく一部の子供を除き運動も苦手の子も多く、とてものびのび育っているようには思えない。
- ・元気で明るい子供・人の気持ちが分かる子供・挨拶のできる子供
- ・素直で感情豊かに育ってほしいです。
- ・壮瞥町に愛着がある子・都会で疲れたら望郷の念を持てる誇りを持てる子

- ・自分のふる里を自慢できるような子・将来的に帰ってくるような子
- ・明るく元気な子供に育ってほしいです。また、今後壮瞥をPRする子供になってほしいです。
- ・自分以外の人との気づかい、会話、かかわりを大事にする子供に育ってほしいと思う。
- ・現代の諸問題とは無縁で、素直な子供に育ってほしい。
- ・文武両道
- ・地元の愛郷心を持ち、貢献意欲に溢れる人材
- ・地元を誇れる個人になることを願う。
- ・まわりに気遣いのできる子ども。やってはいけない事をちゃんと判断できる子ども。
- ・何にでも一生懸命取り組む子ども
- ・道徳的実践力を身に付けた子ども、仲間と協力して問題を解決するために活動できる子
- ・豊かな自然環境の下での学習、生活を通じて色々な現象、事物に興味を持ち、社会に前向きに参加し、自分の人生を楽しむ心を養ってもらいたいと思います。
- ・地域に愛着のある子ども
- ・強く、たくましく、社会に出ても、自分の故郷をほこりに思えるようになって欲しい。他の地域と比べて、どうこうではなく、壮瞥の良さをPRして、それを支えていって欲しい。
- ・大きな声で挨拶できる子に。これは私達も笑顔で挨拶が出来てほめる事。壮瞥町の道路には、端から端まで大人と一緒に桜並木にする。他の町村から人を呼ぶようにしたいです。大人も子供達にも一緒にごみ拾いとか、挨拶もこちらから気をつけてね（車）とかおはようと声掛けたいです。
- ・元気で。
- ・今まで良い。
- ・自然の中で伸び伸びと身体も心も鍛えてほしい。
- ・自己主張と思いやりの兼ね備えた子供。（自己主張といっても、協調性、他人に対する思いやり等を持った上の自己主張です。）
- ・心優しい子ども。
- ・のびのび遊ぶ子ども。
- ・明るく元気。礼儀正しく、挨拶しっかりできる。
- ・明るく活発な子。
- ・元気でいさつのできる子供達であってほしいです。
- ・生きていて良かったと思える子供。
- ・どこに行っても、誰とでもスムーズにコミュニケーションをとれる子。

- ・この地域のことを学んで町外の人たちにPRできるようになってくれたらうれしい。せっかくある自然に親しんで、たくさん遊んでもらいたい。
- ・北海道壮瞥町のことを好きな大人に将来なってもらいたいです。人柄なら思いやれる子、辛いことがあっても踏んばって先に進める子でしょうか。
- ・のびのび明るい子供に育ってほしいです。
- ・自然の中で育っているので遊び遊びと都会ではなかなか経験できないことを学んでほしい。
- ・朝、夕に子どもたちに会いますが、いつもどの子も挨拶をきちんとして素晴らしいです。のびのび育ってほしい。

問14 あなたは、今までにどのようなスポーツ活動を行いましたか。ご自由にお書きください。

- ・パークゴルフ等
- ・(過去に) 総合グラウンドでの野球、ソフトボール、週1、2回のジョギング
- ・ミニバレー大会、婦人スポーツ
- ・サッカー、スキー、水泳、ミニバレー 等々
- ・卓球、ソフトボール、ミニバレーボール、ゴルフ、テニボン、パークゴルフ
- ・バレーボール、ミニバレーボール、ソフトボール、パークゴルフ、ゲートボール、テニボン
- ・雪合戦に参加した。
- ・ミニバレー
- ・これからますますインターネットが高度化すると思われます。また、パソコンも同じように難しくなってきます。年配の人達に教室を設けてください。ゲートボールの参加、軽い散歩30分程度毎日。
- ・テニボン、パークゴルフ、ゴルフ、バスケットボール、水泳
- ・バレーボール、卓球、スキー、マラソン
- ・家庭でジョギングやマラソンに参加。子どもたちと剣道。
- ・ミニバレーボール大会、ソフトボール大会などに参加した。
- ・親子でツーテーマーチ参加。ミニバレーボール大会に参加。
- ・ママさんバレー、ミニバレー、テニボン
- ・町民卓球大会参加、卓球連盟として活動中。
- ・毎週火曜日、卓球連盟。
- ・ミニバレーボール大会に参加しました。

- ・マラソン、ミニバレー、ソフトボール、大会。
- ・野球、スキー、マラソン、ソフトボール、登山、ミニバレー、サイクリング。
- ・剣道、ミニバレーボール大会への参加。
- ・週2回ミニバレーをしています。
- ・パークゴルフをしたことありますが、今がしていない
- ・職場でソフトボール、バレーボール大会に出場
- ・友人とミニバレー・地遊クラブのヨガティス参加
- ・ミニバレーボールの練習や大会、ソフトボール大会の参加、剣道昔少々、週1回ジョギングなど
- ・バレーボール「9人制」・バドミントン・ミニバレー・テニボン
- ・壮瞥町ではソフトボール大会、ミニバレー大会、町民ゆきがっせんに参加。個人的にはサッカー、野球、陸上、弓道の経験有り。
- ・剣道
- ・ミニバレーボール（週1回）
- ・野球などの球技、バレーボール、ゴルフ
- ・野球・ソフトボール
- ・ミニバレーボール大会
- ・友人とミニバレーボール大会参加した。
- ・サイクリングが趣味で空いた時間ができたときに自転車に乗っています。
- ・剣道指導・雪合戦指導・野球は中学時代に
- ・野球・ゴルフ・ミニバレー・ジョギング
- ・オロフレ登山
- ・陸上クラブに参加
- ・ボランティアでバスケットボール審判員をしている。
- ・町民ソフトボール・バドミントン少年団・スキー教室・マラソン大会
- ・ジョギング、スキー、スノーボード、町民ソフトボール大会への参加、水泳など
- ・水泳、野球、弓道、ミニバレー大会、ソフトボール大会に参加しました。
- ・バレーボール、ソフトボール
- ・ミニバレー、ソフトボール、雪合戦等の町の大会に参加した。
- ・パークボールをやっている。草の上で歩くと足にやさしいから。
- ・若い時はバレーボール、ソフトボール。

- ・卓球、スキー。
- ・昆布岳登山とか。
- ・マラソン大会参加、ミニバレー大会参加、雪合戦参加、ソフトボール大会参加。
- ・ミニバレー、朝ウォーキング（1時間）。
- ・10年以前、伊達市によさこいチームに参加していました。週2~3回の練習がありました。
- ・陸上競技。町民バレー参加。スキー、スノーボード。アイスホッケー。
- ・家族でマラソン大会に参加。月5~6回ジョギング。
- ・友人とミニバレーボール大会に参加
- ・30歳から50歳までバレーボールをしていました。今は何もしていません。

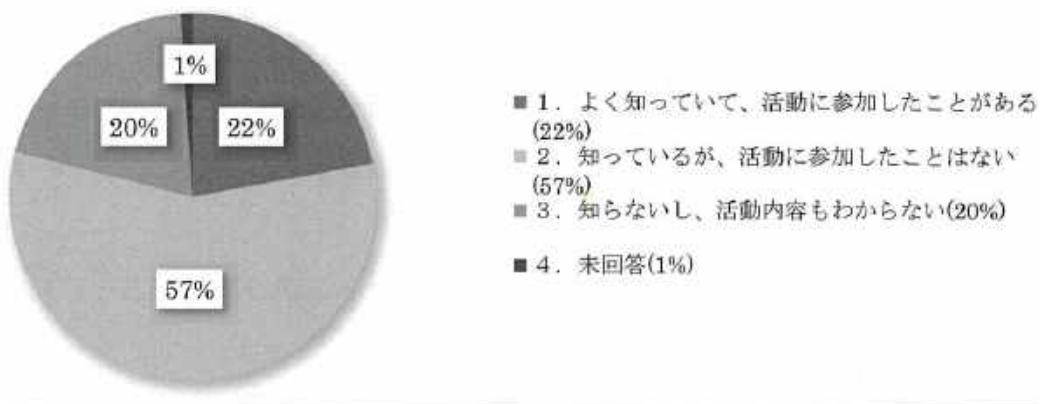
問15 あなたは、今後どのようなスポーツ活動を行いたいですか。やってみたいスポーツなど、ご自由にお書きください。

- ・ふまねっと運動
- ・スポンジテニス、障がいのある方とともに使うスポーツ
- ・ラフィング（笑う）ヨガ
- ・マリンスポーツ（洞爺湖で出来るもの）
- ・ヨガ、ストレッチ
- ・毎日のようにウォーキングをしているので、今の所特にないです。
- ・特にないが、体を動かせるうちは何でも行いたい。
- ・辛くなくて、毎日やらなくても体力が向上して、筋力がつくスポーツ。
- ・ウォーキング、ヨガ、卓球など。
- ・卓球のコーチングを少し勉強してみたい。
- ・卓球を続けていきたい。
- ・高齢者が長く続ける——交流を兼ね、体力維持ができるような——。
- ・フットサル・サッカー競技。冬場は仕事も落ち着いているので、「スポーツジム」的な施設ができれば、冬場の体力づくりに利用したいです。
- ・ゆっくり登山。
- ・eスポーツ
- ・健康であれば自分に出来るスポーツを見つけて色々チャレンジはしてみたい。
- ・スマネットをしている

- ・スポーツジムでヨガやダンス、エアロビなど受けたり、トレーニングできる環境があれば行いたい。
- ・ヨガ
- ・テニス
- ・エアロビ・ヨガ・水中ウォーキング
- ・カヌー、ポルダリングなど壯闊の自然を生かしたスポーツ
- ・ミニバレー・テニボン
- ・パークゴルフ
- ・サイクリングが趣味で空いた時間ができたときに自転車に乗っています。
- ・町民ソフトボール大会
- ・湖があるので手軽にできる湖上のスポーツ
- ・ウォーキング大会があれば良いな。
- ・陸上競技（スポーツクラブ）
- ・地球環境をいかしたスポーツ
- ・湖を使ったスポーツ（SUPなど）・町内でのトレイルランニング
- ・水泳（健康のため）
- ・軽いジョギングやウォーキングなど健康のための有酸素運動、体に負荷がかからない水泳など。
- ・ヨガ。
- ・老人でも、無理なく参加できるもの。
- ・マージャンは健康麻雀サロンに行き、何回かやっていますが、私の頭の中では、パニック状態です。社会福祉協議会で働いている高橋君に教えてもらっていますが、高橋君チョット来て～と大声で呼びます。少しずつ解ってきたら嬉しいですね。高橋君には有難うです。
- ・冬に婦人部などで健康体操に参加するくらいで丁度いいと思っています。
- ・テニス、バドミントンなど。
- ・トレッキング。
- ・子供と一緒に出来るスポーツ。
- ・上記のものを継続して。

問16 あなたは、「NPO 法人そうべつ地遊スポーツクラブ」のことを知っていますか。当てはまるもの1つ選んでください。

1. よく知っていて、活動に参加したことがある(22%)	2. 知っているが、活動に参加したことはない(57%)	3. 知らないし、活動内容もわからない(20%)	4. 未回答(1%)
21	54	19	1



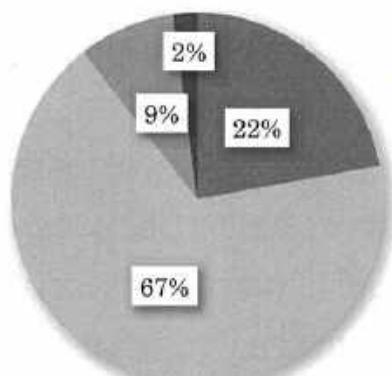
問17 問16で知っているという方にうかがいます。あなたは、今後「NPO 法人そうべつ地遊スポーツクラブ」に期待することは何ですか。ご自由にお書き下さい。

- ・高齢者向けの体操教室
- ・個人、団体競技に関わらず、色々なスポーツを行い、また見学してその中で興味のあるものを見つけてほしい。スポーツは楽しいものだと感じてほしい。
- ・十分地域に根ざした取り組みがなされている。今後は他市町との連携の中核となるクラブになってほしい。
- ・知っているが活動内容まではわからない。
- ・知ってはいるが参加した事がないので、意見はありません。
- ・一人でも多くの人がスポーツ、文化活動に参加し、健康、仲間作りに役立ててほしいと思います。
- ・子どもたちの才能の発掘。
- ・子どもが中心になっていると思いますが、もっと大人もまきこんで、いろんな楽しい事をこれからも続けていってほしいです。
- ・活動の継続。
- ・自己負担少なく気軽に参加できること。わいわい楽しく。
- ・色々なスポーツにたずさわり、スポーツを通じて体を使い、のびのびと成長してほしい事を学んでもらいたい。

- ・運動が苦手（きらい）な子どもへ体を動かす楽しさを学ばせる。
- ・子供達にいろんな経験をさせて、その中で自分の特技を見つけられる事。
- ・交流の場であってほしい。
- ・子供達の育成や部活動のサポートで活動内容は素晴らしいと思います。ただ、行事・運動の大会がもう少し増えてくれればもっと良いと思います。
- ・子供に色々なスポーツや体験をしてほしい。
- ・今後もスポーツ活動の中心的存在として活動を続けてほしいです。
- ・大人と子どもが粹にとらわれずに交流し、顔のみえる関係を築くこと。
- ・これからも子どもたちのためにスポーツ、運動できる環境を継続してほしい。団体、個人で楽しめるスポーツ活動
- ・陸上でかなり活躍していることは聞いています。今後とも活躍を期待しております。
- ・小中高一貫指導
- ・今以上参加者が増えること。
- ・ポテンシャルへのアプローチ、補助
- ・様々な年代の方のニーズに答える活動、スポーツで近隣市町とも交流できる活動、スポーツで町を元気にする。
- ・社会のマナーや礼儀を身に付けること。
- ・私自身子供の頃は運動が嫌い、苦手だったので運動が苦手な子も運動を楽しめる活動を続けて頂きたいです。
- ・地域の子どもたちの交流の場
- ・若い人もいれたらいいと思います。
- ・今後も引き続き楽しい企画を期待しています。
- ・かわらず町内の子どもたちへの教育をお願いします。

問18 あなたは、壮瞥町の文化協会及び文化団体、サークル（バードカービング、混声合唱団、絵画サークル、獅子舞、詩吟の会、阿波踊り同好会、フラダンス、カラオケサークル、裂き織り同好会、日本舞踊、など）を知っていますか。当てはまるもの1つ選んでください。

1. よく知っていて、活動に参加したことがある(22%)	2. 知っているが、活動に参加したことはない(67%)	3. 知らないし、活動内容もわからない(9%)	4. 未回答(2%)
21	64	8	2



- 1. よく知っていて、活動に参加したことがある(22%)
- 2. 知っているが、活動に参加したことはない(67%)
- 3. 知らないし、活動内容もわからない(9%)
- 4. 未回答(2%)

問19 問18で知っているという方にうかがいます。あなたは、今後壮瞥町の文化団体、サークル活動に期待することはなんですか。ご自由にお書き下さい。

- ・補助金の増額
- ・今の活動のままで良いです。
- ・初心者が興味を持ち参加できるような雰囲気があるかどうか。
- ・知ってはいるが参加した事がないので、意見はありません。
- ・どのサークルも長く継続してほしいと思います。
- ・壮瞥町も高齢化しているが、若い人達が参加しやすいサークル運営にしていただきたい。
- ・若い人達が引き継いでいくことを期待したい。
- ・世代を超えて参加できるものがあるといい。先日 TOYACAFE でのイベントに参加しましたが、はた織り体験もお子様から大人の方まで楽しんでもらえていたので、このような体験発表の場があればいいのではないかでしょうか。
- ・手話
- ・1. リーダーの資質の向上 2. 活動のマンネリ化を防ぐこと 3. 活動への参加率を高める工夫
- ・活動の継続、メディア等への発信、住民の活気をつける。

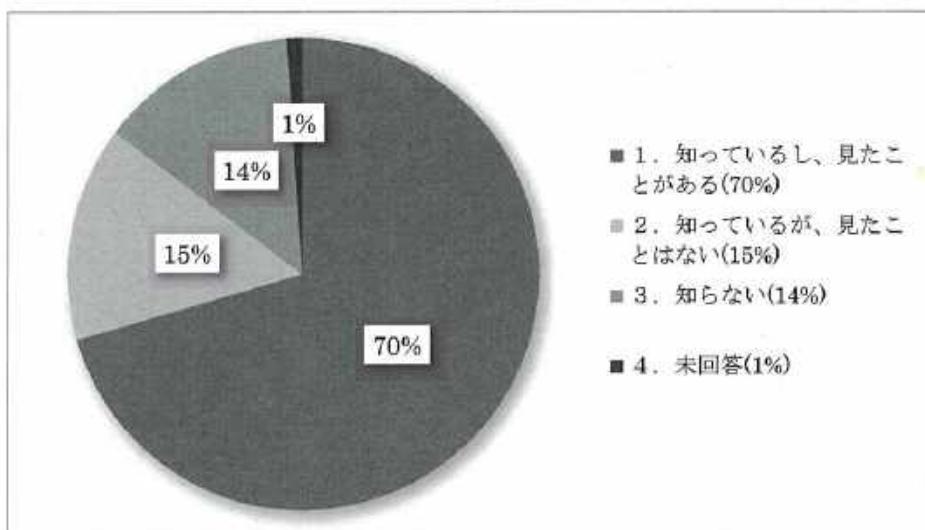
- ・若い人の参加が増えるような活動をしてほしい。
- ・趣味ある人の発表会ですので、長期つづいて行っていただきたい。（詩吟の会員が少ないと残念です。）
- ・サークルを通してお互いのコミュニティーを維持、壮齢の活性
- ・皆様良くやって頂き感謝致しております。
- ・若い世代を引き入れて継承してほしい。
- ・年々少子高齢化が進み、若者不足が目立ってきてていると思います。活動自体に期待する事はないが、このままどのサークル活動も消滅の危機にさらされると思います。
- ・どの団体も会員が少ない（新入会員が入らない）のが悩みではないでしょうか。それに加え高齢化していると思います。子育て世代は自分の時間が取れなく参加することは難しいと思いますので、50代～70代の方が活躍できる魅力ある活動、団体にしていかなければいけないのかと思います。
- ・どうやったら参加できるのか？など、もっとアピールしていただけたらいいと思います。
- ・時間帯や内容等各団体から努力しながら、地道に会員を増やし活動するしかないでしょう。多くの方が、文化団体やサークルで活動され、活性化することに期待します。質問の回答になっていなくてすみません。
- ・スポーツ同様、壮齢のことを多くの人が知る（観光）につなげて欲しい。奇抜なイベント（ハワイと姉妹都市になって昭和新山でフラダンス大会、優勝者は本場ハワイでフラダンス体験）など思いきったことをして欲しい。
- ・活動を継続して行ってほしいです。
- ・各サークルの継続が出来る様願っています。
- ・活動に参加していないので、詳しい活動内容を理解していないで、わからない。
- ・そうべつ手仕事市で民芸・手芸・アロマ体験・裂きおりの活動家が交流した。
(160名来訪) これらが交流販売や体験教室を通じて活性化できる場があるとよい。
- ・若い人たちの活動を広げてほしい。
- ・高齢者の方々が多く参加していますので、今後とも高齢者が多く参加できる環境づくりを期待しています。
- ・地域交流
- ・共通の趣味を持った人たちの場がなくならない様願う。
- ・それぞれのサークルが楽しく活動してもらいたい。
- ・高齢の方を含め壮齢の人は多趣味な方が多い印象です。今後も多様な会が継続してほしいと思います。
- ・地域の活性化

- ・①将来は外国人や移動者も増えると思います。壁を作らずに、誰もが自由に参加できることを願っています。
- ・②雪合戦のボランティアも、組織で参加するのもとても良いことですが、一人一人の力が広がってゆくことをのぞむものです。
- ・終わった後、楽しかったねと言い合える。
- ・特にありませんが、新しく立ち上げることは難しいので、全体的な文化活動として、図書分室で月1回、古典講座、異文化交流、ジオパーク案内、手作り講習など実施しているので、この企画のわくを広げていけばいいと思います。講師の予算化もお願いします。
- ・期待することは特にありません。今のままでいいのではないかと思いますが、混声合唱団に籍を置いていますが、地元の方にもっと参加をして欲しいと思っています。どこの団体も団員の減少に悩んでいるのではないかと思います。（人口が少ないので仕がないとも思っていますが）地元の方が増えることにより文化祭の時なども沢山の方に来場していただけるのではないかと思います。
- ・フラメンコやってみたいです。
- ・山美湖での発表を見ています。とても楽しそうな姿を拝見していますので、そのまま活動が續けばと思います。

問20 あなたは、壮瞥町にある文化財（有形、無形）を知っていますか。当てはまるもの
1つ選んでください。

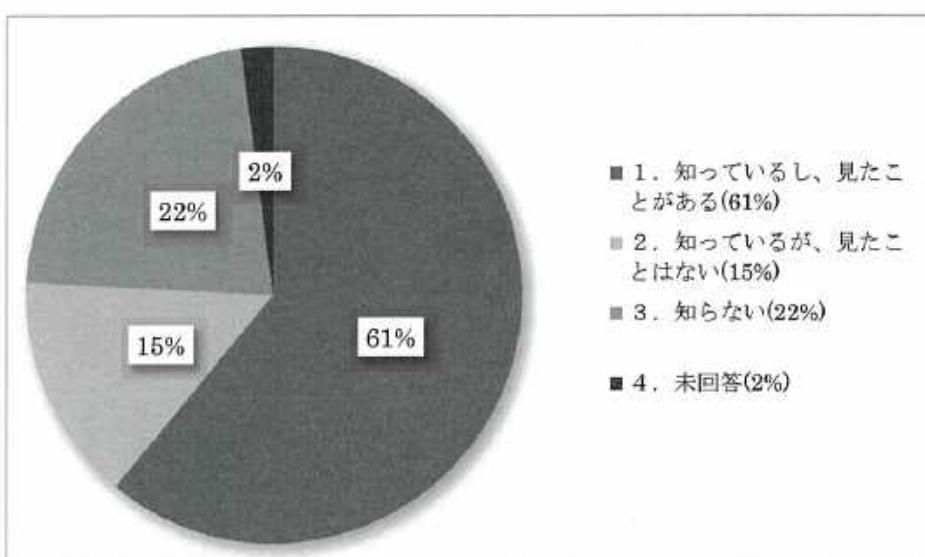
○仲洞爺獅子舞（町指定文化財）

1. 知っているし、見たことがある (70%)	2. 知っているが、見たことはない (15%)	3. 知らない(14%)	4. 未回答(1%)
67	14	13	1



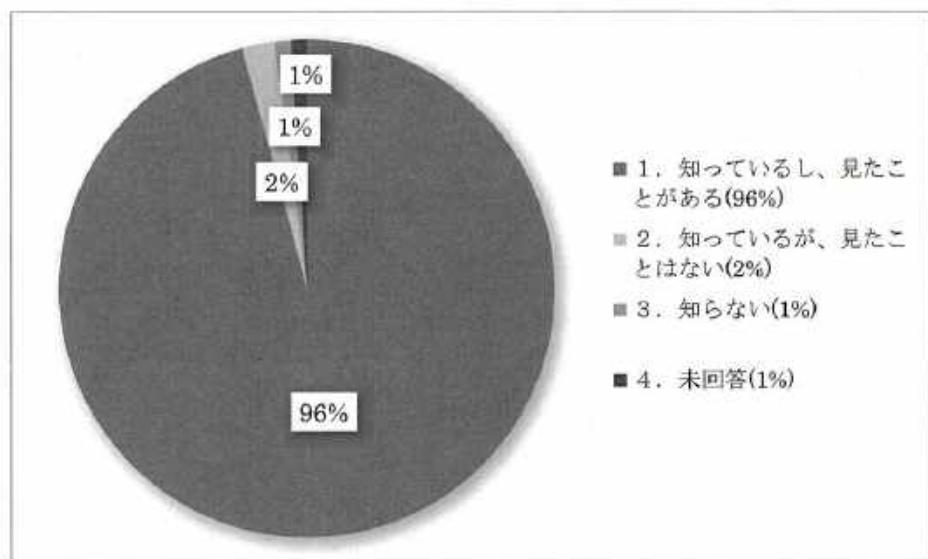
○久保内獅子舞（町指定文化財）

1. 知っているし、見たことがある (61%)	2. 知っているが、見たことはない (15%)	3. 知らない(22%)	4. 未回答(2%)
58	14	21	2



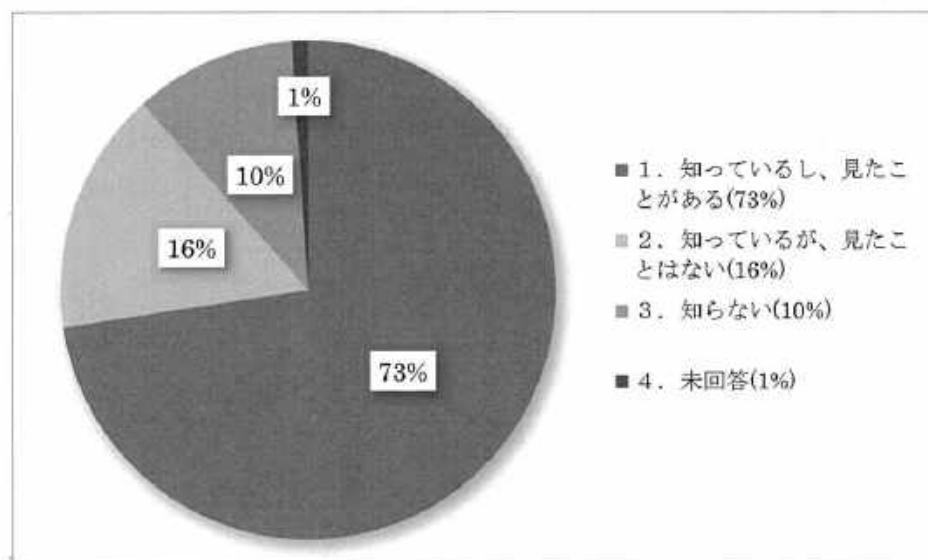
○昭和新山（国指定特別天然記念物）

1. 知っているし、見たことがある (96%)	2. 知っているが、見たことはない (2%)	3. 知らない(1%)	4. 未回答(1%)
91	2	1	1



○紫明苑（町指定文化財）

1. 知っているし、見たことがある (73%)	2. 知っているが、見たことはない (16%)	3. 知らない(10%)	4. 未回答(1%)
69	15	10	1



問21 あなたは、壮瞥町内の自然、歴史、文化、建物などで今後文化財として残していくべきであるという物はありますか。ご自由にお書きください。

- ・昭和新山
- ・森と木の里センター
- ・昭和新山、洞爺湖
- ・1. 町費河川・パンケ川流域、特に河川は汚れが無く、年間通して清い水が流れしており、昔はドジョウやカジカが沢山生息していたところで、今現在もヤマベやニジマスがあり川釣りの人達が楽しんでいる。また、自然が豊かであるため町内に一ヵ所くらい遊歩道的な散策路を設置してはどうか。
- 2. 洞爺湖温泉町から入る町道四十三線の終点箇所、四十三山噴火口があり見晴らし台があったが、今現在はどうなっているのか、素敵な場所なので残してほしい。
- ・洞爺湖の恵をもっと学んでいけたらと思います。壮瞥滝、農産業についてなど。
- ・上記全て残してほしいです。
- ・かつては栄えた集落の物語。
- ・くだもの村、壮瞥滝、ふれあいの村、梅公園。
- ・りんごなどの特産品とコラボしたスポーツ大会をやってみては。・雪合戦。
- ・残してほしい。見たことない人、旅行者に見せるべきだ。
- ・旧久保内小中学校のグラウンドは出来ることならば、残して有効に活用してほしいです。
- ・壮瞥公園からの景色（梅の花が咲く時期限定）・火山遺構公園（ただし隣接して火山博物館のような説明施設があればの話し）
- ・壮瞥滝
- ・残せる物は全て残せるのが良いですね。全てにおいてもっとPRして行くのもいいと思います。
- ・紫明苑を何かに活用できたら良いと思います。
- ・仲洞爺獅子舞（後継者不足が今後の課題だと思います。）
- ・今のところ思いあたらない
- ・あまり知識がないので、これと言ったものは今のところありません。すいません。
- ・1977火山遺構・新山沼展望・鉄橋遺構公園・旧消防倉庫に眠る民具
- ・町内を見るとすごく古い物はないかもしれないが、回想などする時に今から町内呼びかけて古い物を集めておく。
- ・昭和新山雪合戦を無形文化財として登録できるのでしょうか？
- ・温泉、昭和新山

- ・全てが時を経ては文化財になるのでは！？施設や建物においては複数点在しているので集約すべき。
- ・次の世代へ語り継ぎ残していければよいと思う。
- ・①北海道 150 年の歴史をふりかえった時、この壮瞥町では火山との共存が大きいので、噴火の歴史を深く掘り下げ、今後の防災につなげていきたい。
②食（農産物）について、これらを使って、将来は外国にも輸出できるような加工品を開発していきたい。
りんご、梅、豆、いも、かぼちゃ等…。
- ・梅公園の花が咲くと車で上にやっとあがっても、置く場所がなく、もう少しだけ広くなればと思っています。
蟠渓は温泉が溢れているのに全部長流川に流しているので、勿体ないと思う。広場があるから足場でも作ると人が集まるし、大きな大きな桜の木も春に全部切ってしまって、勿体ない。足場の傍で、オバチャンの手料理を売ると楽しいと思う。野菜の規格外を安く売ったり、それで料理を作ったり、若い人達の働く場所が出来ると良いと思う。
- ・建部にある第一番観音様を誰かがいつまでも見守っていってほしい。
- ・水上交通の歴史的遺産として滝の上、壮瞥温泉（いこい荘前）。古道として（壮瞥温泉阿野幹男宅横～滝の町におりる道）。胆振縦貫鉄道鉄橋遺構。雪合戦。巨木の指定はありますか？湖畔の巨木群。壮瞥温泉いこい荘前団地（記念碑群）。そうべつ滝。キムンドの滝（復活してほしい）。文化財指定ではないが町内のビュースポットを町民に募集して指定しては？滝不動のみこし川渡り。蟠渓の長流川川原の温泉（自噴温泉）。この項目とてもいいと思います。壮瞥町の魅力発信として掘り起こし、再認識して指定し、看板や案内ブックなど作ったらいいと思います。郷土の誇りとしての位置付けで、（わたしは壮瞥温泉地区を考えてみましたが、町民に募集したらもっといろいろでてくると思います。）
- ・壮瞥に住んでいながら上記以外知っているものはありません。ゆっくり町の中を歩いてみたいと思います。詳しい方の案内役付きで。
- ・壮瞥滝はよく写真を撮りに行くので、今後もキレイな景観を大切にしていってほしいと思います。

●その他の記述

- ・アンケート調査でこれだけ要望を書くのであれば、記名にした方が良いのでは。

資料 5

壮瞥町第8次社会教育中期計画及び
第2期壮瞥町スポーツ推進計画策定会議（ワークショップ資料）

日 時 令和元年9月6日（金） 18時30分～

会 場 地域交流センター山美湖 2階 研修室1・2

講師 北海道立生涯学習推進センター 主幹 五十嵐 秀介 氏
社会教育主事 中西 めぐみ 氏

出席者 社会教育委員・文化審議会委員・スポーツ推進委員

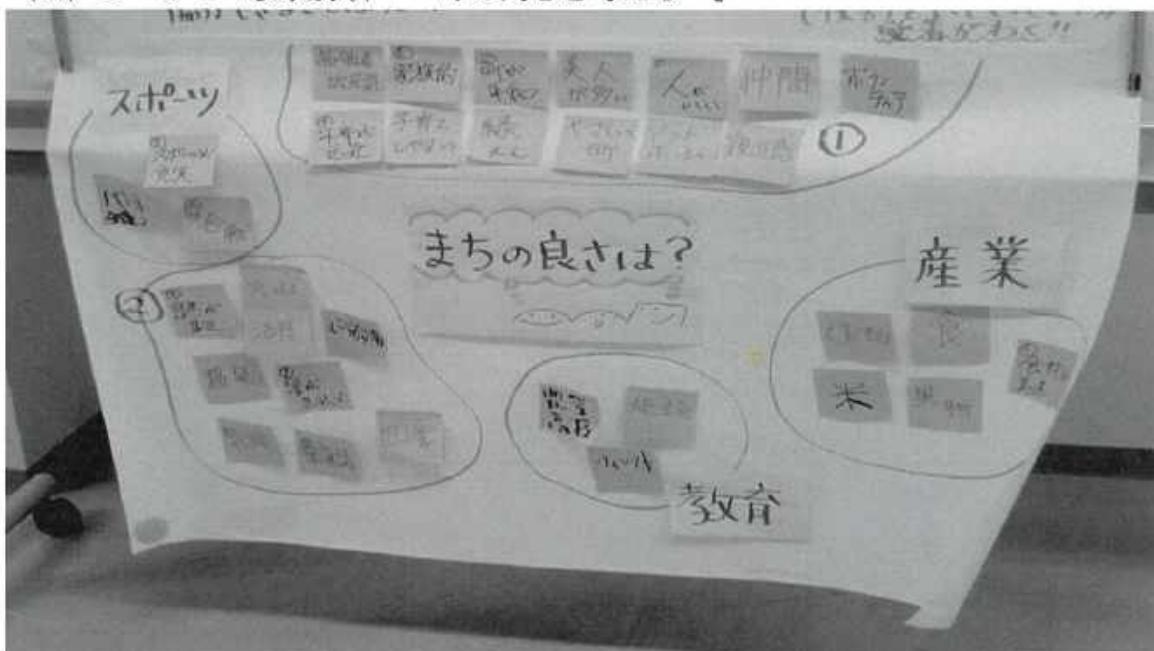


(ワークショップ開会)

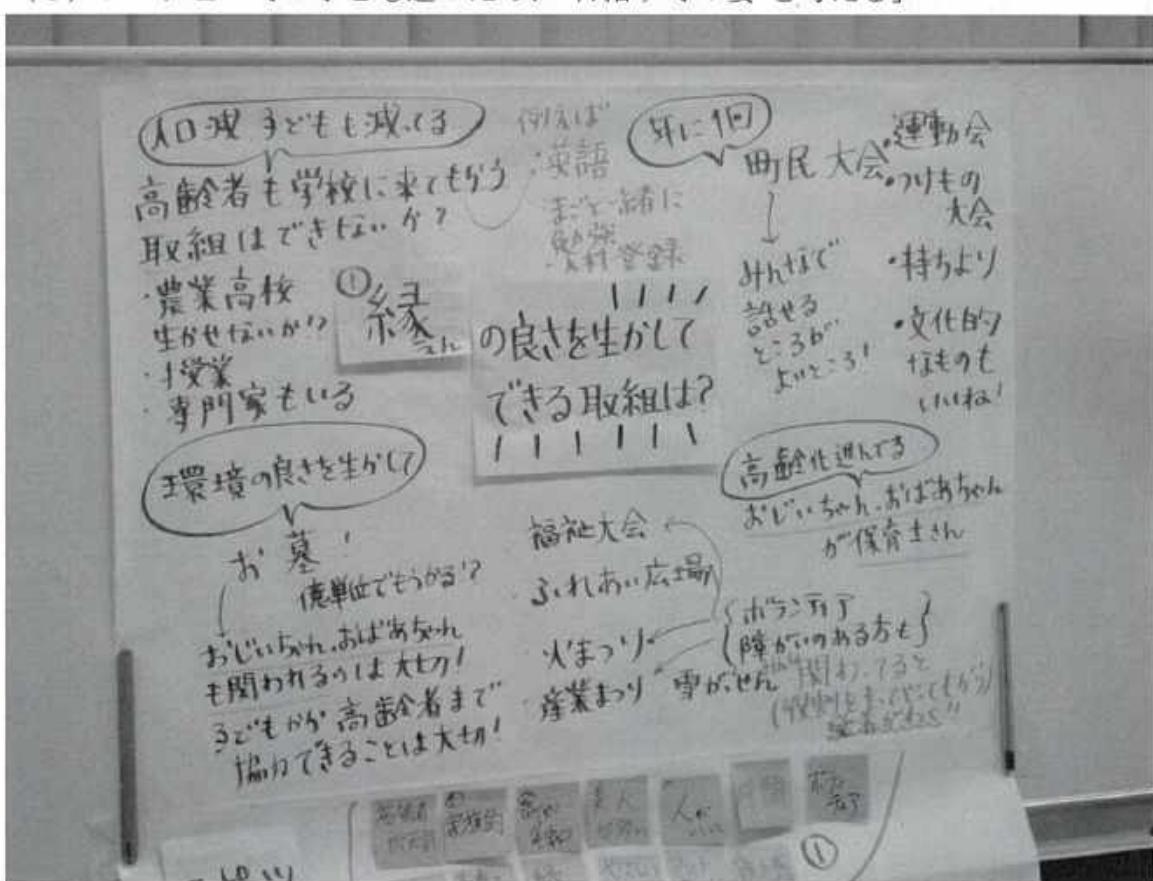
(1) 計画策定について

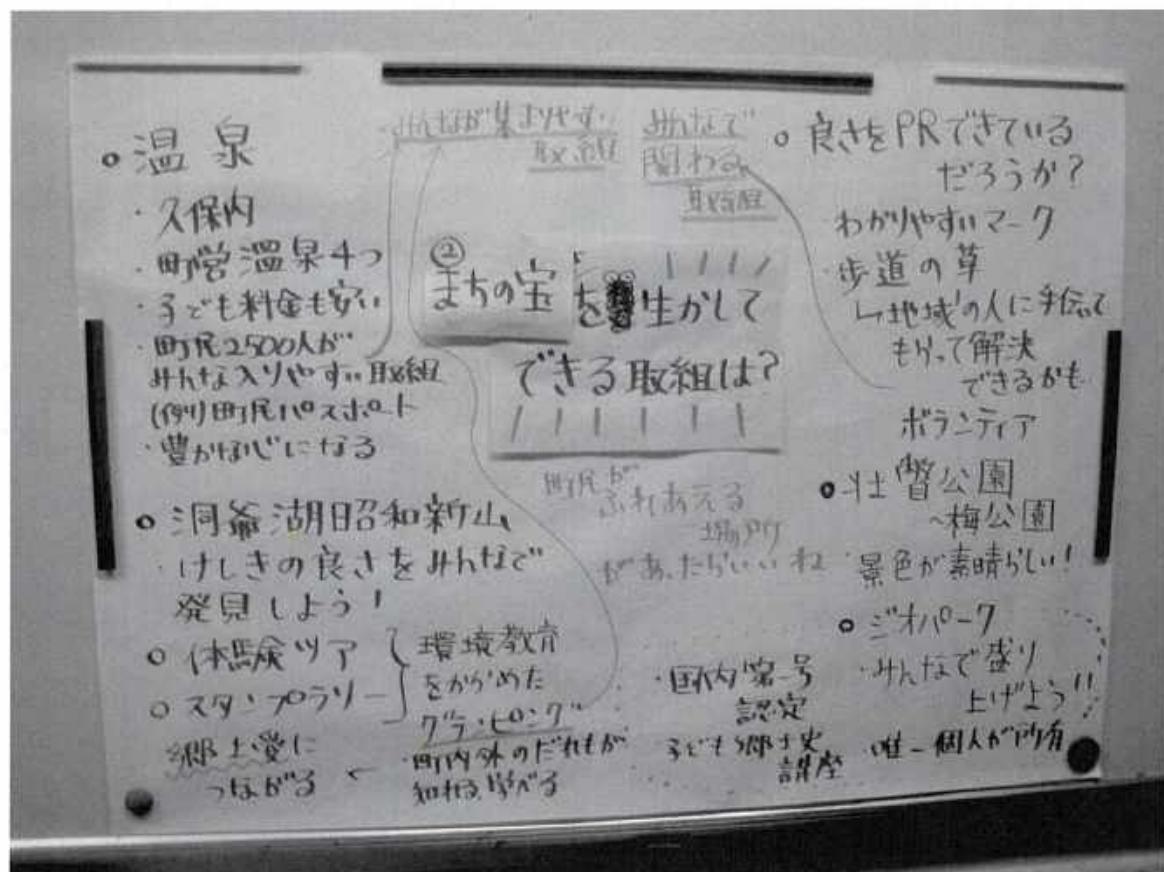
別紙パワーポイントより説明 (76P~81P)

(2) ワークI 「現状分析 ~町の良さを考える~」



(3) ワークII 「町の子ども達のために“目指す町の姿”を考える」





(グループ討議)

第8次壮瞥町社会教育中期計画
第2次壮瞥町スポーツ推進計画
策定会議

令和元年9月6日（金）
壮瞥町地域交流センター「山美湖」
道立生涯学習推進センター 五十嵐・中西

「はじめに」のはじめに…

本日、みなさんにやっていただくこと…

- 「町の良さ」を教えてください！
- 町の未来を担う子どもたちのために
『町の良さを生かして、できる取組は？』
を考えいただきます！

本日の流れ

- ♪ はじめに
- ♪ 計画策定の意義を理解する
- ♪ 町の現状分析をする
- ♪ 計画の『目指す姿』を考える
- ♪ 計画の基本コンセプトを考える
- ♪ 今後のスケジュールを確認する

計画策定の意義について

計画とは

効果的かつ効率的に
行動するためのもの

国立教育政策研究所社会教育実践研究センター
「社会教育計画策定ハンドブック～計画と評価の実際」から

計画策定の意義について

5年後の地域の姿を思い描き、
今後、5年間で重点的に取り組む
内容を考える

計画策定の意義について

計画を策定することで…

- 成り行き任せの事業展開を回避することができる。
- 無駄な事業等を除いたり、施策、事業等の優先順位をつけたりして、効率的な社会教育計画を策定することができる。
- 説得力ある予算要求が可能になり、財源の確保が可能になる。
- 次の段階の社会教育計画を、より効果的、効率的なものにすることができる。

ただし…

計画策定の意義について

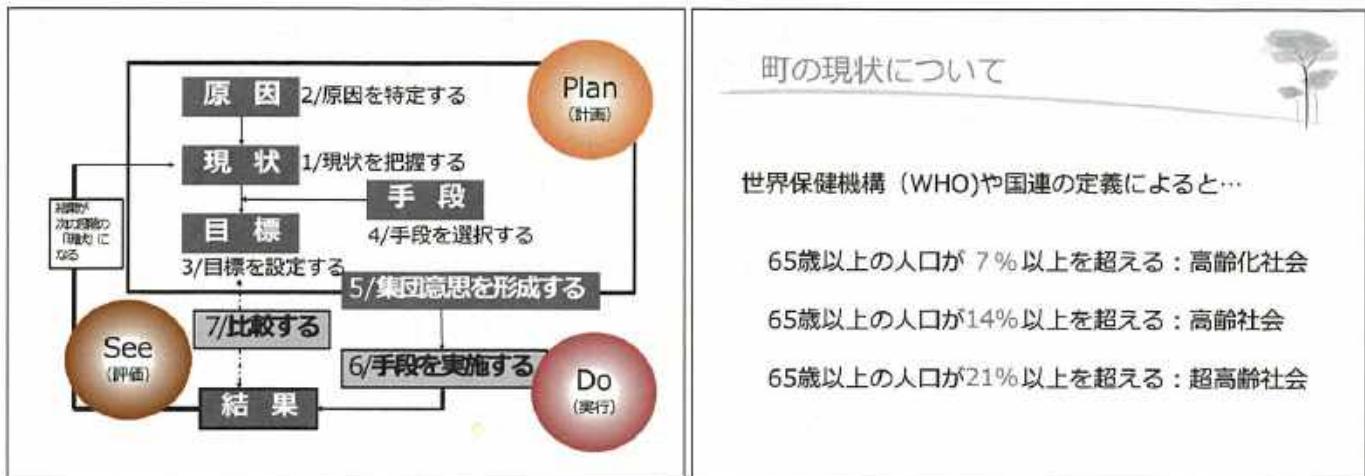
計画を策定することで…

- 成り行き任せの事業展開を回避することができる。
- 無駄な事業等を除いたり、施策、事業等の優先順位をつけたりして、効率的な社会教育計画を策定することができる。
- 説得力ある予算要求が可能になり、財源の確保が可能になる。
- 次の段階の社会教育計画を、より効果的、効率的なものにすることができる。

ただし…

計画策定の意義について





町の現状について

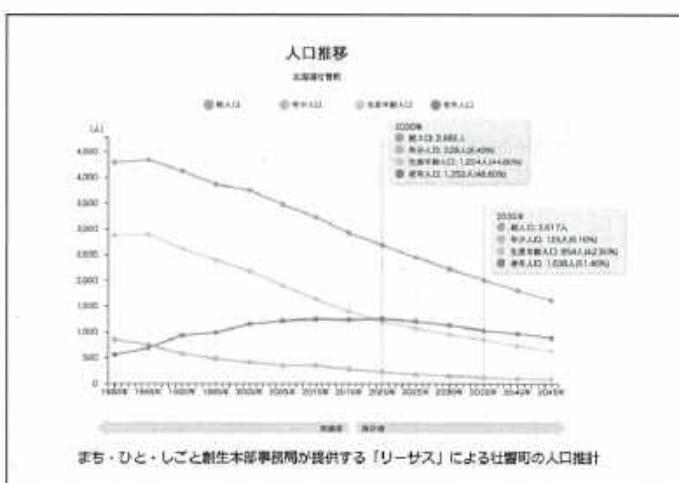


世界保健機構(WHO)や国連の定義によると…

65歳以上人口が7%以上を超える:高齢化社会

65歳以上人口が14%以上を超える:高齢社会

65歳以上人口が21%以上を超える:超高齢社会



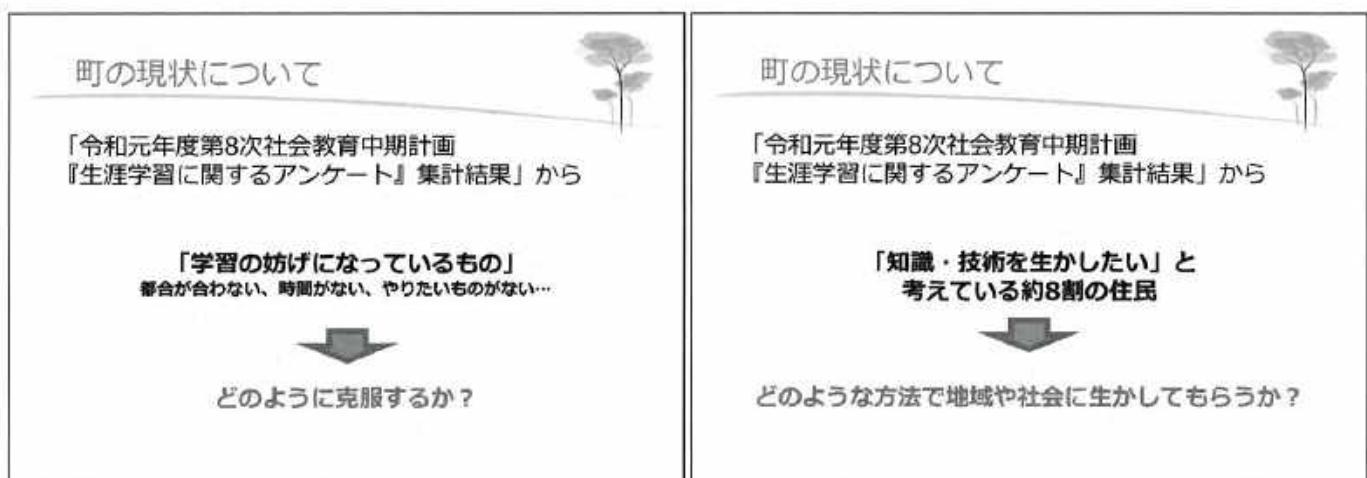
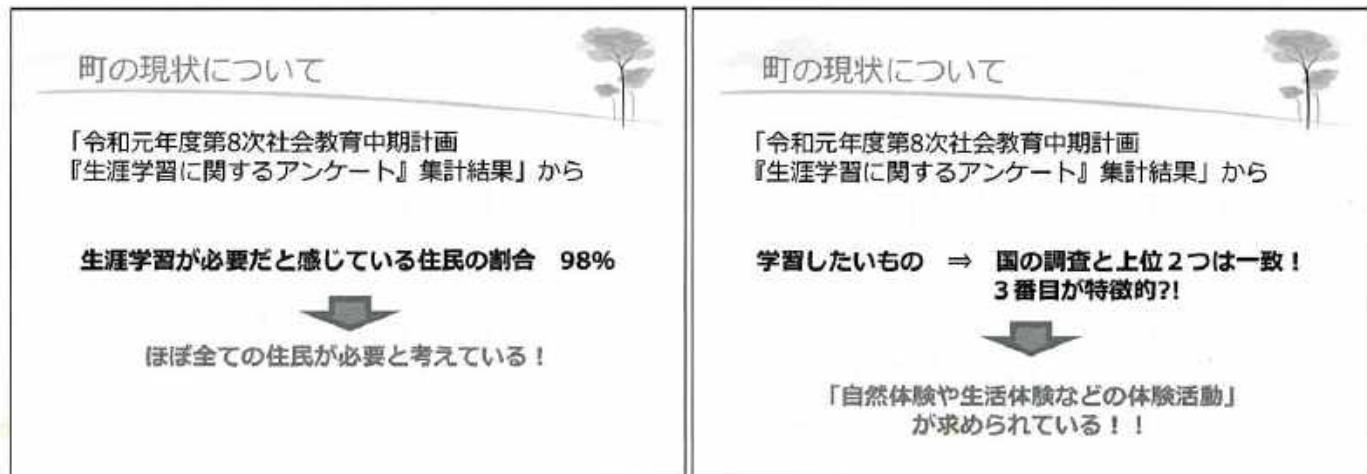
町の現状について



北海道の高齢者人口の状況（高齢化率順）<北海道保健福祉部HPから>
※平成31年1月1日現在 住民基本台帳人口

リーサスによる2035年の推計

48	壯闊町	40.3%	51.4%
11	白老町	46.3%	52.7%
35	洞爺湖町	41.3%	52.4%
59	むかわ町	39.7%	47.4%
18	北海道全体	31.3%	38.0%



町の現状について

「令和元年度第8次社会教育中期計画
『生涯学習に関するアンケート』集計結果」から

子どもたちの成長の姿

実現するために何をやればいいか？

町の現状について

みなさん
策定委員が考える「壮瞥町の良さ」を挙げてください！

- ・産業（農業、観光など）
- ・自然、環境
- ・学校
- ・人材（個人、団体、企業など）
- ・スポーツ活動など

マチの貴重な資源

↓
計画（施策・事業）
に活かす！！

計画の「目指す姿」を考える

策定委員の皆さんに、
マチの良さ（資源）を活かして、
どんな取組（こと）ができるの
かを挙げてもらいます。

計画の「目指す姿」を考える

テーマ

町の未来を担う子どもたちのために
町の良さを生かして
どんな取組ができるだろう！

計画の基本コンセプトを考える



- ・本日のゴールです！
- ・コンセプトを設定するまでのキーワードを拾い上げましょう！

おわりに



- ・拾い上げたキーワードは皆さん方の「魂」です！！
 - ・今後も、「地域の視点」（住民の声）を計画に反映する取組を行ってください！
- ・ 本日はありがとうございました！

資料 6

壮瞥町第8次社会教育中期計画策定に係る各委員名簿（委員長以外は五十音順で記載）

各 委 員 会	氏 名	備 考
壮瞥町社会教育委員	中山 雄三	委員長
	小笠原 賢司	
	長内 謙典	
	木村 大作	
	柴田 厉章	
	清水 修	
	千田 愛子	
	深松 一宏	
	松原 宣彦	
	森近 恭子	
壮瞥町文化財審議会委員	千田 重光	委員長
	高井 一英	
	田中 文夫	
	富田 嘉郎	
	中村 真弓	
壮瞥町スポーツ推進委員	金子 祐一	委員長
	岡崎 真琴	
	佐藤 伸一	
	清水 博子	
	新藤 雅己	
	高橋 千穂	
	長友 加也	
	西澤 由美	
	深谷 明弘	
	毛利 直紀	
北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課生涯 学習センターグループ（協力者）	五十嵐 秀介	主幹
	中西 めぐみ	社会教育主事

資料 7

○策定経過

- 令和元年 6月25日 第1回壮瞥町社会教育委員会
第8次壮瞥町社会教育中期計画策定スケジュールについて
- 令和元年 6月27日 第1回壮瞥町文化財審議会会議
第8次壮瞥町社会教育中期計画策定スケジュールについて
- 令和元年 7月18日 第9回壮瞥町教育委員会議により壮瞥町第8次社会教育中期計画
策定について諮問
- 令和元年 7月24日 壮瞥町第8次社会教育中期計画策定に係る事業評価会議
社会教育事業評価について
壮瞥町第7次社会教育中期計画の評価について
- 令和元年 9月 6日 第8次壮瞥町社会教育中期計画及び第2期壮瞥町スポーツ推進会議
計画策定について
ワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ
今後のスケジュール「計画策定までのスケジュールと委員の取組」
- 令和元年12月16日 第2回壮瞥町第8次社会教育中期計画策定委員会
壮瞥町第8次社会教育中期計画について
- 令和2年 2月14日 第3回壮瞥町第8次社会教育中期計画策定委員会
(壮瞥町スポーツ推進委員と合同で会議開催)
壮瞥町第8次社会教育中期計画案の検討について
- 令和2年 3月17日 壮瞥町教育委員会に壮瞥町第8次社会教育中期計画を答申

資料 6

壮瞥町第8次社会教育中期計画策定に係る各委員名簿（委員長以外は五十音順で記載）

各 委 員 会	氏 名	備 考
壮瞥町社会教育委員	中山 雄三	委員長
	小笠原 賢司	
	長内 謙典	
	木村 大作	
	柴田 暦章	
	清水 修	
	千田 愛子	
	深松 一宏	
	松原 宣彦	
	森近 恭子	
壮瞥町文化財審議会委員	千田 重光	委員長
	高井 一英	
	田中 文夫	
	富田 嘉郎	
	中村 真弓	
壮瞥町スポーツ推進委員	金子 祐一	委員長
	岡崎 真琴	
	佐藤 伸一	
	清水 博子	
	新藤 雅己	
	高橋 千穂	
	長友 加也	
	西澤 由美	
	深谷 明弘	
	毛利 直紀	
北海道教育庁生涯学習推進局生涯学習課生涯 学習センターグループ（協力者）	五十嵐 秀介	主幹
	中西 めぐみ	社会教育主事

資料 7

○策定経過

- 令和元年 6月25日 第1回壮瞥町社会教育委員会
第8次壮瞥町社会教育中期計画策定スケジュールについて
- 令和元年 6月27日 第1回壮瞥町文化財審議会会議
第8次壮瞥町社会教育中期計画策定スケジュールについて
- 令和元年 7月18日 第9回壮瞥町教育委員会議により壮瞥町第8次社会教育中期計画
策定について諮問
- 令和元年 7月24日 壮瞥町第8次社会教育中期計画策定に係る事業評価会議
社会教育事業評価について
壮瞥町第7次社会教育中期計画の評価について
- 令和元年 9月 6日 第8次壮瞥町社会教育中期計画及び第2期壮瞥町スポーツ推進会議
計画策定について
ワークⅠ・Ⅱ・Ⅲ
今後のスケジュール「計画策定までのスケジュールと委員の取組」
- 令和元年 12月16日 第2回壮瞥町第8次社会教育中期計画策定委員会
壮瞥町第8次社会教育中期計画について
- 令和2年 2月14日 第3回壮瞥町第8次社会教育中期計画策定委員会
(壮瞥町スポーツ推進委員と合同で会議開催)
壮瞥町第8次社会教育中期計画案の検討について
- 令和2年 3月17日 壮瞥町教育委員会に壮瞥町第8次社会教育中期計画を答申



壮瞥町第8次社会教育中期計画

集う風・育む風・繋ぐ風 吹くそうべつ

～人が集い 人が育ち 人と人が繋がる学びのまち・壮瞥を目指して～

令和2年3月

発行 壮瞥町教育委員会

TEL 0142-66-2131

FAX 0142-66-2132